取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

AQUA

TABLE OF CONTENTS
目次

TABLE OF CONTENTS | 目次

1 運転する前に

2 運転するときに

3 室内装備の使い方

1
2
3
4
5
6

6 車両仕様

さくいん

1 2 3 4 5 6

イラスト目次　外観

G's を除く

ヘッドランプ（ハイビーム）P. 193

ヘッドランプ（ロービーム）P. 193

ボンネット P. 295

フロントワイパー P. 199

ドアミラー P. 87

サイド方向指示灯／非常点滅灯 P. 162, 331

フロントフォグランプ★ P. 198

車幅灯 P. 193

フロント方向指示灯／非常点滅灯 P. 162, 331

G's

フロント方向指示灯／非常点滅灯 P. 162, 331

フロントフォグランプ P. 198

LED イルミネーションビーム P. 211

★：仕様により異なる装備やオプション装備

室内

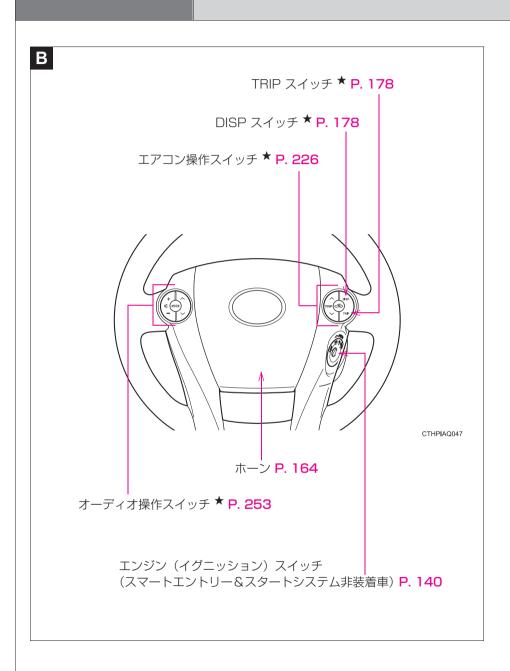
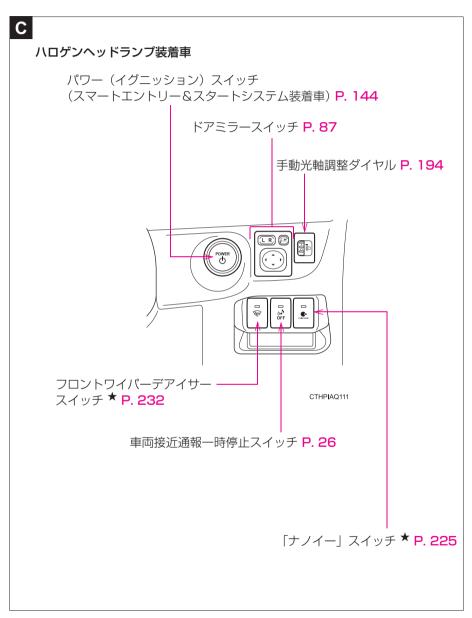
ヘッドレスト P. 74
運転席 SRS エアバッグ P. 101
シートベルト P. 76
パワーウインドウ
スイッチ ★ P. 90
助手席 SRS エアバッグ
P. 101
パッケージトレイ ★ P. 279
A
B
C
CTHPIAQ095
リヤシート P. 70
コンソールボックス ★ P. 261
小物入れ ★ P. 262
カップホルダー P. 264
SRS サイドエアバッグ ★ P. 101
フロントシート P. 69
小物入れ P. 262

A

★：仕様により異なる装備やオプション装備

B
タイプ A
ウインドウロックスイッチ P. 90
ドアロックスイッチ P. 61
ロックレバー P. 62
CTHPIAQ079
パワーウインドウスイッチ P. 90
ボトルホルダー P. 265
タイプ B
ウインドウロックスイッチ P. 90
ドアロックスイッチ P. 61
ロックレバー P. 62
CTHPIAQ078
パワーウインドウスイッチ P. 90
ボトルホルダー P. 265

C

★：仕様により異なる装備やオプション装備

インストルメントパネル

★：仕様により異なる装備やオプション装備

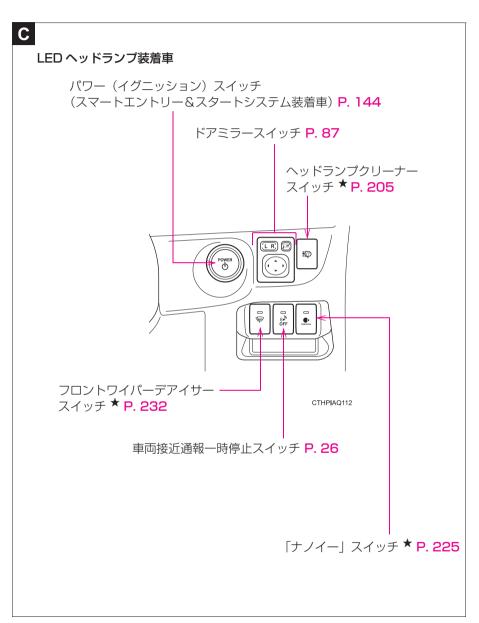
B
TRIP スイッチ★ P. 178
DISP スイッチ★ P. 178
エアコン操作スイッチ★ P. 226
MODE
TEMP
DISP
TRIP
PUSH
CTHPIAQ047
ホーン P. 164
オーディオ操作スイッチ★ P. 253
エンジン（イグニッション）スイッチ
（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）P. 140

C

ハロゲンヘッドランプ装着車

★：仕様により異なる装備やオプション装備

C

LED ヘッドランプ装着車

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機などの取り付け、取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

飲酒運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- エンジン回転数
- 電気モーター回転数
- アクセルの操作状況
- ブレーキの操作状況
- 車速
- シフトポジション
- 駆動用電池の状態

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。
なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの展開および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。

EDR は次のようなデータを記録します。

・ 車両の各システムの作動状況
・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務付けられています)

⚠ 警告

■お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター・発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」(→P. 120)をお読みください。

警告

■駆動用電池について

絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。

適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 不法投棄または放置され、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する
- 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

■駆動用電池の廃棄について

駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

⚠ 警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠ 注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあります。

知識

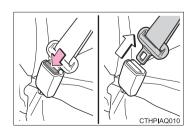
機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティシンボル

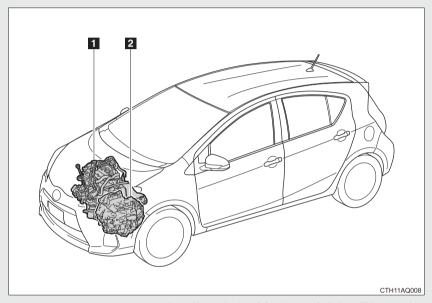
“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

1 運転する前に

ハイブリッドシステムの特徴

アクアのハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境にやさしい技術となっています。

※イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

1 ガソリンエンジン

2 電気モーター

■ **停車時、発進時、低速走行時**

停車中はガソリンエンジンを停止※します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※し、電気モーターを使って走行します。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。(→P. 27)

■ **通常走行時**

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

■ **急加速時**

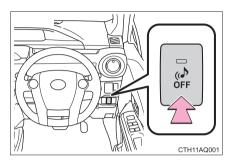
ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力をあげ、力強く加速します。

■ **減速時、制動時(回生ブレーキ)**

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25 km/h をこえると消音します。スイッチ操作で消音することもできます。

CTH11AQ001

消音するには、エンジン スイッチが“ON”(スマートエントリー&スタートシステム非装着車)または“パワー”スイッチが ON モード(スマートエントリー&スタートシステム装着車)のとき、スイッチを押す

消音時はスイッチ上のインジケーターが点灯します。もう一度スイッチを押すと車両接近通報装置は ON になります。また、ハイブリッドシステムを始動するごとに、車両接近通報装置は ON になります。

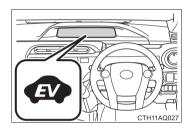
知識

■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

●シフトレバーが D または B でアクセルペダルから足を離したとき

●シフトレバーが D または B でブレーキペダルを踏んだとき

■EV 走行インジケーターランプについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに、EV 走行インジケーターランプが点灯します。

マルチインフォメーションディスプレイ装着車：エコジャッジ画面もしくはエコウォレットの簡易表示画面を選択したときに表示されます。（→P. 181）

■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。

●ガソリンエンジン暖機中

●駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき

●駆動用電池充電時

●暖房をかけているとき

■駆動用電池の充電について

●ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2 ～ 3ヶ月に 1 度、約 30 分間または 16 km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

●シフトレバーが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。車両停止時は必ず P にしてください。また、渋滞時などでも、D または B で運転してください。

■補機バッテリーの充電について

→P. 404

■補機バッテリーがあがってしまったり、交換などで取りはずしたときは

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2、3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケータが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気がつかない場合があります。安全のため、駐車時は確実にシフトレバーをＰにして、パーキングブレーキをかけてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●エンジンルームからのモーター音

●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音

●バックドアを開けたときに聞こえる作動音

●ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッションから聞こえる“コツコツ”“カタカタ”という音

●急加速時のエンジン音

●ブレーキペダルを踏んだときに聞こえる回生ブレーキの音

●ブレーキペダルを踏んだときに聞こえる、作動音やモーター音

●ガソリンエンジンの始動、停止による振動

●リヤシート下（左側）にある吸入口から聞こえるファンの音

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- ●周囲の騒音が大きい場合
- ●雨または強風の場合
- ●車両前方と比較して、車両後方の場合

■メンテナンスや修理、廃車について

お車のメンテナンスや修理、廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

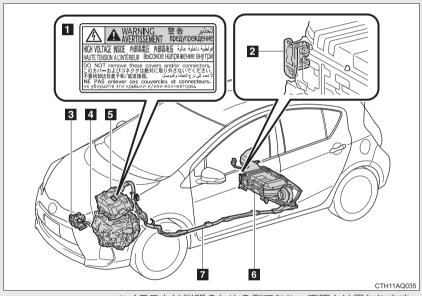
■販売店で設定可能な機能

車両接近通報装置の音量を大きくすることができます。
(カスタマイズ一覧 →P. 426)

■車両接近通報装置のスイッチインジケーターについて

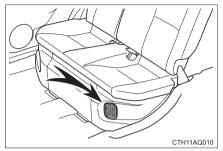
車両接近通報一時停止スイッチ上のインジケーターが 16 秒間点滅し、点灯したときは、システムに異常があるおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池、パワーコントロールユニット、オレンジ色の高圧ケーブル、電気モーターなどの高電圧部位（最高約 520 V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

※イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

1. コーションラベル
2. サービスプラグ
3. エアコンコンプレッサー
4. 電気モーター
5. パワーコントロールユニット・DC/DC コンバーター
6. 駆動用電池
7. 高電圧ケーブル（オレンジ色）

駆動用電池冷却用吸入口

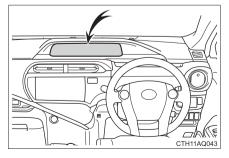
CTH11AQ010

リヤシート下（左側）部には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の過熱や出力低下の原因になります。

緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告灯および警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動的に警告灯が点灯（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）または警告メッセージが表示（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）されます。

CTH11AQ043

警告灯はメーターで点灯し、警告メッセージはマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された警告灯または画面の指示に従ってください。
（→P. 344，354）

知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたときは

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしても READY インジケータが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ガス欠になったときは

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P. 348）の点滅が止まるまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量は車両水平状態で約 5 L です。車両の傾きによって給油量はかわります。）

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

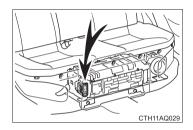
警告

■**高電圧、高温について**

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●高電圧部位、高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし、分解などは絶対に行わないでください。

●走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧、高温部位に注意してください。

CTH11AQ029

●サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグはトヨタ販売店にて車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。
取り扱いを誤ると感電のおそれがあるため、絶対にさわらないでください。

警告

■**事故が発生したときは**

次のことをお守りいただかないと、感電など生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、シフトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけ、ハイブリッドシステムを停止する（→P. 130）
- 高電圧部位、高電圧の配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
  露出した高電圧部品や配線などがないかを確認してください。
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
  駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
  水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 前輪が接地した状態でけん引しない
  電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P. 334）
- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
  この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

■**駆動用電池について**

駆動用電池を不法に投棄または放置すると、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれた場合に、生命にかかわる感電事故などにつながるおそれがあり危険です。

注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

●吸入口のまわりに荷物などを置いたりしないでください。
吸入口がふさがれると駆動用電池が過熱したり、故障の原因になります。

●吸入口は、目詰まりしないよう定期的に清掃してください。

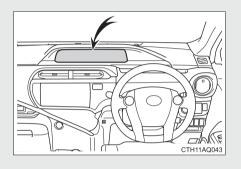
●吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

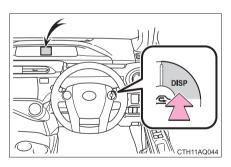
●駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

エネルギーモニター／燃費画面

マルチインフォメーションディスプレイ非装着車
駆動用電池の残量をメーターに表示します。

マルチインフォメーションディスプレイ装着車
ハイブリッドシステムの状態をマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

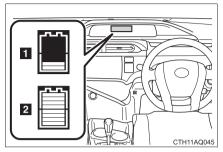
CTH11AQ043

エネルギーモニターの見方（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

CTH11AQ044

DISP スイッチを押してメニューを切りかえ、エネルギーモニターを表示させる

電気のエネルギーで走行しているとき	
ガソリンのエネルギーで走行しているとき	
ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき	
駆動用電池に充電しているとき	
エネルギーの流れがないとき	
駆動用電池の残量表示	少ない　多い

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

駆動用電池の残量表示について（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）

CTH11AQ045

駆動用電池の残量に応じて、表示が 8 段階に変化します。

1 残量が少ない

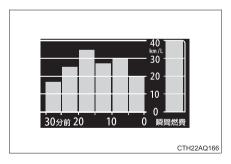
2 残量が多い

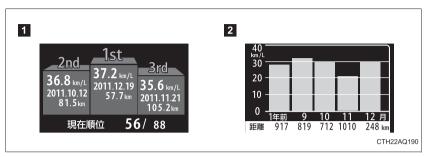
燃費画面の見方（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

燃費画面には、2 種類のメニューがあります。DISP スイッチを押して次のメニューを選択し、詳細画面に切りかえます。

5 分間燃費・燃費履歴・エコウォレット履歴（→P. 186）は出荷時（初期設定）は OFF に設定されています。（→P. 41）

■ 5 分間燃費

CTH22AQ166

ハイブリッドシステムを始動してからの燃費履歴を 5 分刻みで表示します。瞬間燃費を同時に表示し、30 分前までの燃費と比較することができます。

■ 燃費履歴

燃費履歴には、2 種類の表示があります。
自己ベストと月平均は、設定画面で切りかえることができます。
(→P. 41)

1 自己ベスト

過去の燃費ベスト3と現在の順位を表示します。

オドメーターとトリップメーターのどちらを表示しているかによって、表示内容が異なります。

- オドメーター表示時:ハイブリッドシステムを始動してからの記録を表示します。
- トリップメーター表示時:トリップメーターをリセットしてからの記録を表示します。トリップメーターA・B それぞれの記録を表示します。

順位は 100 位までを表示し、以降はランク外として表示されます。

走行距離 0.1 km 未満は記録されません。

2 月平均

月ごとの平均燃費を表示します。

今月、過去 3 か月分と 1 年前の同月を表示し、比較することができます。

設定画面で燃費履歴をリセットすることができます。(→P. 41)

知識

■駆動用電池の残量表示について

駆動用電池の充電量はハイブリッドシステムによって自動制御されています。そのため、回生ブレーキ機能による電気回収・ガソリンエンジンによる発電が行われても、駆動用電池の残量表示が最大（レベル８）まで到達しないことがありますが、異常ではありません。

■表示画面選択（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

CTH11AQ038

DISP スイッチを押してメニューの設定 ＆ 画面消を選択し、表示画面選択で DISP スイッチを押し続けると、設定画面に切りかわります。

次の画面の切りかえや設定ができます。

・エコウォレット履歴画面の ON/OFF 切りかえ（→P. 177）
・５分間燃費画面の ON/OFF 切りかえ
・燃費履歴のリセット
・燃費履歴画面の切りかえ (OFF ／月平均／自己ベスト)

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

■ エコドライブモードの利用

→P. 160

■ ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの表示をエコエリアの範囲に保つことで、より環境に配慮した走行が可能です。(→P. 171, 187)

■ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

■ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

■ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどしゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

■ **エアコンのON・OFF**

必要時以外はエアコンスイッチをOFFにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、設定温度の上げすぎなど必要以上の暖房を避けると、燃費向上につながります。

■ **タイヤ空気圧の点検**

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

■ **荷物**

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

■ **走行前の暖機運転**

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動・停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。

なお短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

キー

お客様へ次のキーをお渡しします。

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

CTH12AQ001

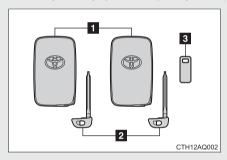
1 キー（ワイヤレス機能装着）

ワイヤレス機能の作動（→P. 58）

2 キー（ワイヤレス機能非装着）

3 キーナンバープレート

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

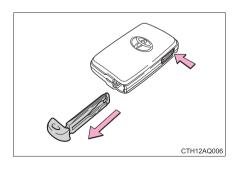
CTH12AQ002

1 電子キー

- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 47）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 58）

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

CTH12AQ006

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります（→P. 398）

知識

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一、キー（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）を紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。（→P. 397）

■航空機に乗るときは

航空機にワイヤレスキーまたは電子キーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

⚠ 注意

■キーについて

キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

- ●電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ●必ず日本国内でご使用ください。

■キーを携帯するときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電源を入れた状態の電化製品とは10 cm以上離して携帯してください。10 cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー&スタートシステム★の故障などで販売店に車両を持っていくときは

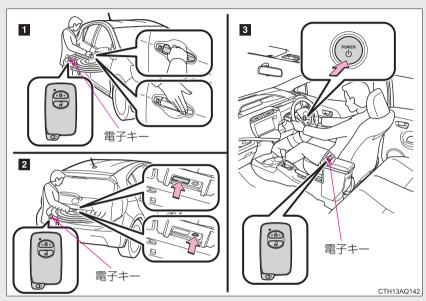
車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■キーを紛失したときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

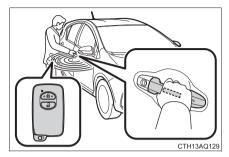
キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りのキーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

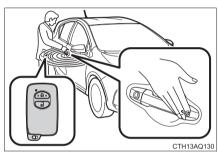
スマートエントリー＆スタートシステム★

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。（必ず運転者が携帯してください）

1 ドアを施錠・解錠する（→P. 48）
2 バックドアを施錠・解錠する（→P. 49）
3 ハイブリッドシステムを始動する（→P. 144）

★：仕様により異なる装備やオプション装備

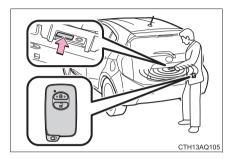
ドアの解錠・施錠（フロント席ドアハンドルのみ）

ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

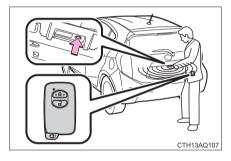
施錠操作後約３秒間は解錠できません。

ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

バックドアの解錠・施錠

CTH13AQ105

バックドアオープンスイッチを押して解錠する

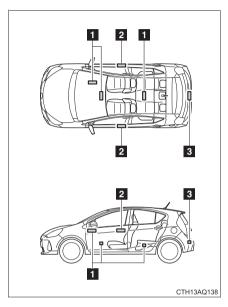
施錠操作後約３秒間は解錠できません。

CTH13AQ107

ロックスイッチを押して施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

アンテナの位置と作動範囲

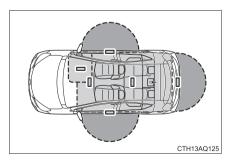
■ アンテナの位置

CTH13AQ138

1 車内アンテナ

2 車外アンテナ

3 ラゲージルーム外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

CTH13AQ125

● ：ドアの施錠・解錠時

フロント席ドアハンドル／バックドアオープン・ロックスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します。）

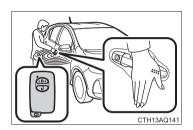
● ：ハイブリッドシステム始動時または“パワー”スイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないときは

ドアハンドル表面のロックセンサー部に指でふれても施錠できないときは、てのひらでロックセンサー部にふれてください。

■警告ブザーと警告灯について

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、警告灯が点灯することがあります。マルチインフォメーションディスプレイ装着車の場合は、メッセージが表示されることがあります。警告灯が点灯したり、メッセージが表示された場合は、状況に応じて適切に対処してください。（→P. 352, 361）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 5 秒間鳴る	いずれかのドアが開いている状態でスマートエントリー&スタートシステム、もしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“パワー”スイッチをアクセサリーモードにした（“パワー”スイッチがアクセサリーモードのとき運転席ドアが開いた）	“パワー”スイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。（セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。）

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・ 車の外約 2 m 以内に電子キーを 10 分以上放置した。
・ 5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった。

●14日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法 →P. 398）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・ハイブリッドシステム始動時または“パワー”スイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車から出ないでください。電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。

●電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）

●電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は電子キーを車両から 2 m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（電子キーの盗難に注意してください）

●車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します）

●ロック・アンロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しないことがあります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

■施錠時の留意事項

●手袋を着けてロックセンサーにふれた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーにふれてください。

●ロック操作は、連続で２回まで有効で、３回目以降はロック動作しません。

●車内に電子キーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全てのドアを施錠してください。

■解錠時の留意事項

●急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されないことがあります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●手袋を着けてドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてハンドル裏面のセンサーにふれてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないときは

●盗難防止のため、電子キーを車から２ｍ以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■スマートエントリー＆スタートシステムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないときは

●ドアの施錠・解錠：→P. 398

●ハイブリッドシステムの始動：→P. 399

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告ブザーが鳴ります。（→P. 352）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→P. 321）

・ スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・ 作動範囲が狭くなった
・ 電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐために次のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを保管しないでください。

・ TV
・ パソコン
・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・ 電気スタンド
・ 電磁調理器

■電池が切れたときは

→P. 321

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムをキャンセルしたときは

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P. 58, 398)

●ハイブリッドシステムの始動・“パワー”スイッチのモード切りかえ：→P. 399

●ハイブリッドシステムの停止：→P. 400

■販売店で設定可能な機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧 →P. 426）

⚠ 警告

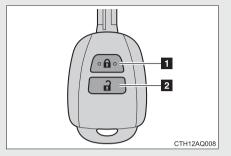
■電波がおよぼす影響についての警告

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→P. 50）から約 22 cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

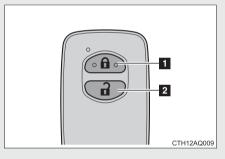
ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

2 全ドアを解錠する

スマートエントリー&スタートシステム装着車

1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

2 全ドアを解錠する

知識

■作動の合図

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は１回、解錠は２回）

スマートエントリー&スタートシステム装着車

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は１回、解錠は２回）

■半ドア警告ブザー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

- ●近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器・大型ディスプレイがあるとき
- ●無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- ●複数のワイヤレスキーが近くにあるとき
- ●ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- ●近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
- ●ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

→P. 53

■ワイヤレスリモコンが正常に作動しないときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

ドアの施錠・解錠 →P. 398

■電池の消耗について

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

ワイヤレス機能が作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が消耗したら新しい電池に交換してください。(→P. 321)

スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P. 56

■電池が切れたときは

→P. 321

■キー登録本数の確認について(スマートエントリー&スタートシステム装着車)

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧 →P. 426)

ドア（フロントドア、リヤドア）

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン・キー・ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー＆スタートシステム★

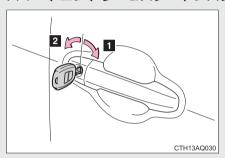
→P. 48

■ ワイヤレスリモコン

→P. 58

■ キー

キーを操作すると、ドアが下記のように作動します。

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

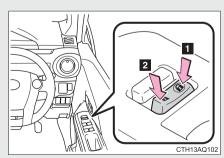
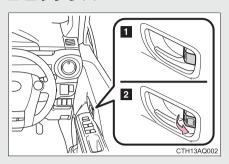
スマートエントリー＆スタートシステム装着車

メカニカルキーを使ってドアを施錠・解錠できます。（→P. 398）

■ ドアロックスイッチ

1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ ロックレバー

1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側から運転席ドアを施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

キーがエンジン スイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“パワー”スイッチがアクセサリーまたは ON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■メカニカルキーでの施錠・解錠（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P. 398）

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■不正キーの使用について（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空回りして解錠できません。

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●シートベルトを必ず使用する
- ●すべてのドアを施錠する
- ●すべてのドアを確実に閉める
- ●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- ●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

■ バックドアの施錠・解錠

ドアロックスイッチ

→P. 61

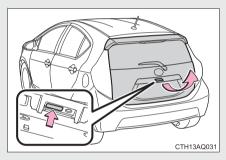
ワイヤレスリモコン

→P. 58

スマートエントリー＆スタートシステム★

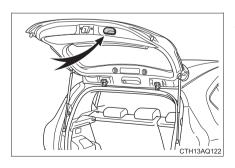
→P. 49

■ 車外からバックドアを開けるには

CTH13AQ031

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

バックドアオープンスイッチを押したあと、約 1 秒間はバックドアを閉めることができません。

バックドアを閉めるときは

CTH13AQ122

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■走行中の警告

- 走行中はバックドアを閉めてください。
  開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■**バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- ●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- ●半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

- ●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- ●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

警告

- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
  手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

注意

■**ダンパーステーについて**

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

フロントシート

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 シート全体の上下調整★

警告

■リクライニング調整について

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

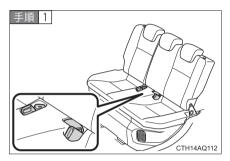
リヤシート

リヤシートは折りたたむことができます。

背もたれを前に倒す

■ 操作する前に

手順 1

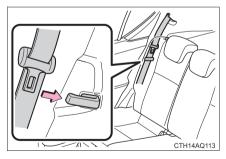
CTH14AQ112

リヤシートベルトのバックルを格納する

手順 2 シートベルトを格納する

リヤ中央席

→P. 78

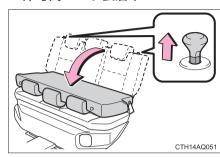
リヤ外側席

CTH14AQ113

シートベルトをベルトハンガーにかける

手順 3 ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→P. 74）

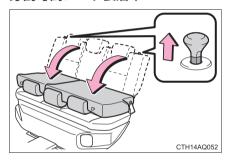
■ 前に倒すときは

一体可倒シート装着車

CTH14AQ051

ロック解除ノブを引き、背もたれを前方に倒す

ロックが解除されると、ロック解除ノブの赤ラベルが見えます。

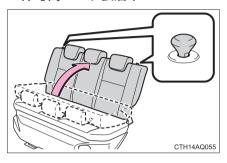
分割可倒シート装着車

CTH14AQ052

ロック解除ノブを引き、背もたれを前方に倒す

ロックが解除されると、ロック解除ノブの赤ラベルが見えます。

■ もとにもどすときは

一体可倒シート装着車

CTH14AQ055

背もたれを起こして固定する

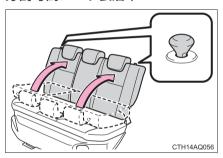
固定されると、ロック解除ノブの赤ラベルが見えなくなります。

分割可倒シート装着車

CTH14AQ056

背もたれを起こして固定する

固定されると、ロック解除ノブの赤ラベルが見えなくなります。

警告

■リヤシートを操作するときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中にリヤシートを操作しない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする

●操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する

●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない

●お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

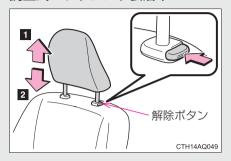
■背もたれをもとにもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
シートが確実に固定されていないときは、ノブの下部に赤ラベルが見えます。赤ラベルが見えていないことを確認してください。

●シートベルトを挟み込まないようにする

ヘッドレスト

調整式ヘッドレスト装着車

1 上げる

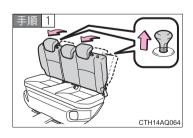
2 下げる

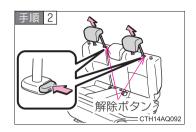
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

知識

■フロント席（調整式ヘッドレスト装着車）とリヤ中央席のヘッドレストを取りはずすときは

解除ボタンを押しながら取りはずします。

■リヤ外側席のヘッドレストを取りはずすときは

ロック解除ノブを引き、背もたれを前に倒す。

ヘッドレストをはずすことができる位置まで前に倒してください。

解除ボタンを押しながら、ヘッドレストをはずす。

■ **フロント席のヘッドレストの高さについて（調整式ヘッドレスト装着車）**

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■ **リヤ席のヘッドレストの使用について**

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

警告

■ **ヘッドレストについて（調整式ヘッドレスト装着車）**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

CTH14AQ004

● 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

● 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

● ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方

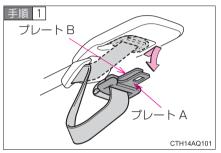
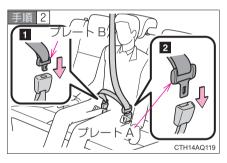
CTH14AQ007

1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

2 ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

リヤ中央席シートベルト

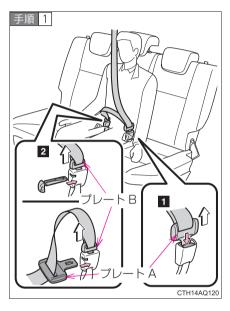
■ 着用のしかた

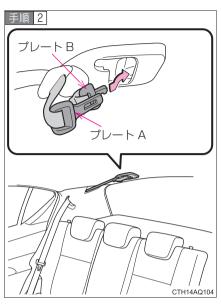
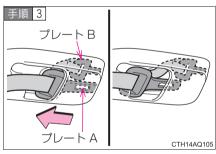
リヤ中央席は、2 つのバックルを用いた 3 点式のシートベルトです。正しく作動させるために、シートベルトバックルを正しい位置へ確実に挿し込んでください。

プレートをいったんホルダーの奥へ押し込み取り出す

1 プレート B をバックルに挿し込む

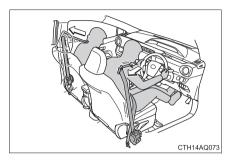
2 プレート A をバックルに挿し込む

“カチッ”と音がするまで挿し込む

■ 分離・格納のしかた

リヤ中央席シートベルトは、リヤシートを折りたたむ場合など必要なときに分離・格納することができます。安全のため、ベルトを分離したときは必ずプレートを所定の場所に格納してください。

1. バックルの解除ボタンを押しプレートＡをはずす
2. キー（→P. 44）、またはプレートＡをバックルの穴に挿し込む

シートベルトを分離・分割するときは、ベルトをもちながらゆっくり巻きもどします。

プレート A とプレート B を重ねて天井のホルダーに奥まで挿し込む

プレート B をホルダーの奥に挿し込んだ状態で、プレート A のみホルダーの入口をふさぐ位置まで動かす

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃、横転のときは、通常は作動しません。

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- ●シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 120)
- ●シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 76)

■シートベルトプリテンショナーについて

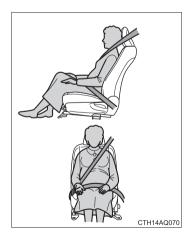
シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組に付き一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P. 76）
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■**お子さまを乗せるときは**

お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■**プリテンショナー付きシートベルトについて**

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■**シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■分離格納式シートベルトについて

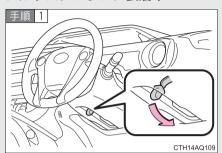
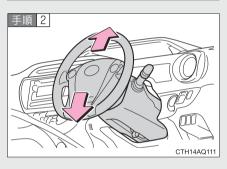
●分離格納式シートベルトを使用するときは、必ずプレート B とバックルを結合してください。結合しない状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●分割可能シート装着車：右側のリヤシートを前に倒した状態で、リヤ中央席に座らないでください。倒したシートにリヤ中央席のシートベルトバックルが挟まれるため、正しく装着することができません。事故などの場合にシートベルトが十分な効果を発揮できず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

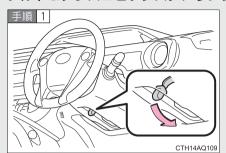
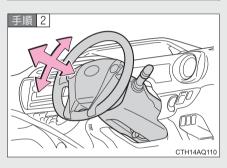
●分離格納式シートベルトを格納するときは、プレートを確実に挿し込み、固定してください。正しく格納していないと、走行中にプレートが飛び出し、乗員にあたるなどしてけがをするおそれがあります。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

チルトステアリング装着車

ハンドルを持ち、レバーを下げる

ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

チルト&テレスコピックステアリング装着車

ハンドルを持ち、レバーを下げる

ハンドルを上下･前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

警告

■走行中の警告

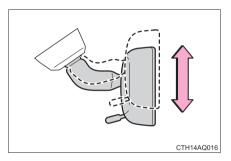
走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

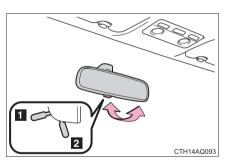
ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

インナーミラー

座った姿勢に合わせて、後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

1 通常使用時

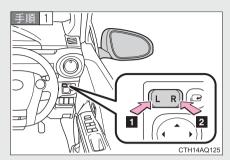
2 防眩時

⚠ 警告

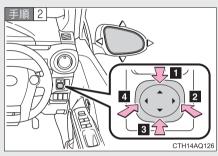
■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整をします。

調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

1 左

2 右

ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

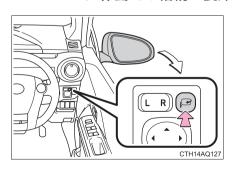
1 上

2 右

3 下

4 左

ドアミラーを格納するときは

■ マニュアル作動での格納・復帰のしかた

スイッチを押してドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

■ オート作動での格納･復帰のしかた

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンなどによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納･復帰させることができます。また、エンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、“パワー”スイッチを ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にすることにより、復帰させることができます。

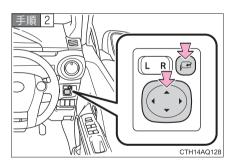
オート電動格納機能の ON・OFF の切りかえかた

次の手順で、オート電動格納機能のONとOFFが交互に切りかわります。

手順 1 **スマートエントリー＆スタートシステム非装着車**

エンジン スイッチを“LOCK”にする

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“パワー”スイッチを OFF にする

ミラー格納スイッチと鏡面調整スイッチの上側を同時に２秒以上押す

知識

■補機バッテリーを脱着したときは

オート電動格納機能の ON・OFF がリセットされ、機能が ON の状態にもどります。機能を OFF にするときは、再度オート電動格納機能の ON・OFF 切りかえをおこなってください。(→P. 88)

■鏡面調整の作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが“ACC”または“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車
“パワー”スイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■寒冷時に「オート作動」で使用するときは

寒冷時に「オート作動」で使用していると、ドアミラーが凍結して、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

警告

■走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走らない
  走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

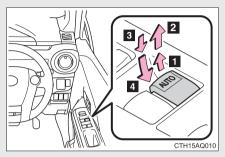
■ミラーが動いているときは

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

パワーウインドウ★

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。

CTH15AQ010

1 閉める

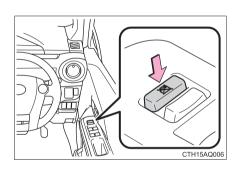
2 自動全閉（運転席のみ）※

3 開ける

4 自動全開（運転席のみ）※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ

CTH15AQ006

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動（運転席のみ）

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能（運転席のみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■パワーウインドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、運転席ドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジン スイッチを“ON”(スマートエントリー&スタートシステム非装着車)、または“パワー”スイッチを ON モード(スマートエントリー&スタートシステム装着車)の状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

手順 2 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

手順 3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。
以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■ **ドアガラスを開閉するときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻きこんだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■ **挟み込み防止機能（運転席のみ）**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

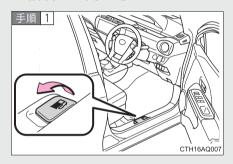
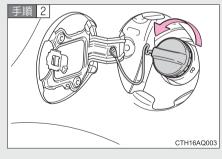
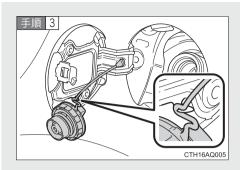
● スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

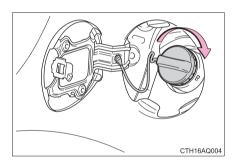
ドアとドアガラスを閉め、エンジン スイッチを“LOCK”にしてください。

● スマートエントリー＆スタートシステム装着車

ドアとドアガラスを閉め、“パワー”スイッチを OFF にしてください。

● 燃料の種類を確認してください。（→P. 95）

■ 給油口の開け方

オープナーを上げて、給油口を開ける

キャップをゆっくりまわして開ける

キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3% 以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3% 以下）も使用することができます。

⚠ 警告

■給油について

給油するときは次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去する
除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開ける。
キャップを開けるときは、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き返すおそれがあります。

●給油口に、静電気を除去していない人を近付けない

●気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。

●車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものにふれない
再び帯電する可能性があります。

■給油時の注意

●ふきこぼれを防ぐため次の点に注意してください。

・給油口にノズルを確実に挿入する
・継ぎ足し給油をしない

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■キャップ交換時の警告

トヨタ純正品以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■給油するときは

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

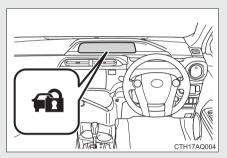
- ガソリンエンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- ハイブリッドシステムの出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

イモビライザーシステム★

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

CTH17AQ004

“パワー”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■ メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

周囲の環境や条件により、イモビライザーシステムが正常に作動せずハイブリッドシステムを始動できないことがあります。(→P. 53)

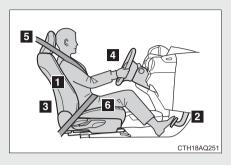
注意

■ イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

★ : 仕様により異なる装備やオプション装備

正しい運転姿勢

次の条件に合った正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 69）

2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→ P. 69）

3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→ P. 69）

4 SRS　エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 84）

5 調整式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 74）

6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 76）

⚠ 警告

■走行中は

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されずに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

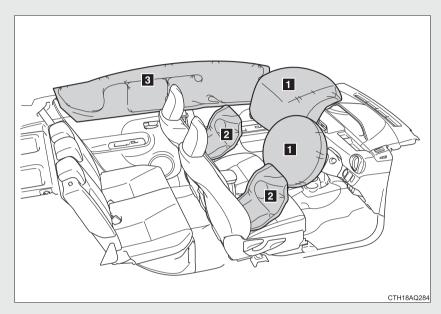
●フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

■シートを調整するときは

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ★

2 SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

3 SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS　エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●SRS カーテンシールドエアバッグ非装着車：フロント席などだけでなく、エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：フロント席・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなく、エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30 km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

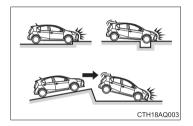
・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝撃の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき
(SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ★)

SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値(約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値)以上の場合に作動します。

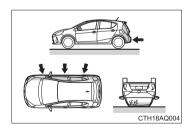
■衝突以外で作動するとき(フロント SRS エアバッグ)

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動しないとき(フロント SRS エアバッグ)

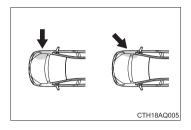
フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

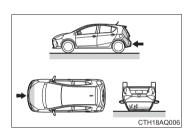
●後方からの衝突

●横転

★: 仕様により異なる装備やオプション装備

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ★）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

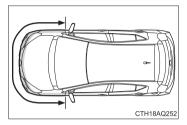
SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

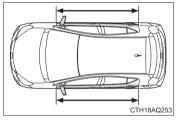
★：仕様により異なる装備やオプション装備

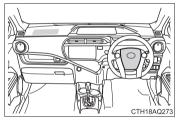
■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

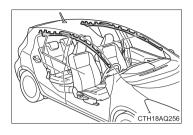
CTH18AQ252

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

CTH18AQ253

●SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ★はふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

CTH18AQ273

●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

CTH18AQ254

●SRS サイドエアバッグ★が内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

★: 仕様により異なる装備やオプション装備

●SRS カーテンシールドエアバッグ★が内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P. 120)

★：仕様により異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

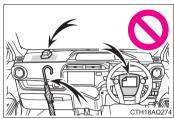
●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

●SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

●SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

CTH18AQ274

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない

CTH18AQ028

●SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く →P. 382）

●SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ非装着車：SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

●SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ装着車：SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造

●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理、改造

●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0：10kgまで
グループ0^+：13kgまで
グループⅠ：9～18kg
グループⅡ：15～25kg
グループⅢ：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0^+ に相当

チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0^+、I に相当

ジュニアシート

ECE R44 基準のグループ、Ⅱ、Ⅲ に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

<table>
<tr><th rowspan="4">質量グループ</th><th colspan="5">着座位置（または他の位置）</th></tr>
<tr><th colspan="2">フロントシート</th><th colspan="3">リヤシート</th></tr>
<tr><th colspan="2">助手席</th><th rowspan="2">右席</th><th rowspan="2">左席</th><th rowspan="2">中央席</th></tr>
<tr><th>調整式
ヘッドレスト</th><th>非調整式
ヘッドレスト</th></tr>
<tr><td>0
（10kg まで）</td><td>×</td><td>×</td><td>U</td><td>U</td><td>U ※3</td></tr>
<tr><td>0+
（13kg まで）</td><td>×</td><td>×</td><td>U</td><td>U</td><td>U ※3</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ⅰ
（9 ～ 18kg）</td><td>前向き L ※1</td><td>L ※1</td><td rowspan="2">U</td><td rowspan="2">U</td><td rowspan="2">U ※3</td></tr>
<tr><td>うしろ向き ×</td><td>×</td></tr>
<tr><td>Ⅱ
（15 ～ 25kg）</td><td>L ※1, ※2</td><td>×</td><td>U ※2</td><td>U ※2</td><td>×</td></tr>
<tr><td>Ⅲ
（22 ～ 36kg）</td><td>L ※1, ※2</td><td>×</td><td>U ※2</td><td>U ※2</td><td>×</td></tr>
</table>

● 上表に記入する記号の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

L：子供専用シートのリストに示す特定の子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

※1：背もたれを直立状態にしてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2：子供専用シートを取り付ける際は、ヘッドレストをはずしてください。

※3：リヤ中央席に子供専用シートを取り付けた際、左右席シートベルトバックルが子供専用シートの下に隠れてしまう場合があります。
その場合はシートベルトバックルを引き出しシートベルトを正しく着用して下さい。

子供専用シートの装着については、子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

● 子供専用シートのリスト

質量グループ	子供専用シート	カテゴリー
Ⅰ（9 ～ 18kg）	・トヨタ純正 NEO G-Child baby ・トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅱ（15 ～ 25kg）	・トヨタ純正 ジュニアシート	汎用
Ⅲ（22 ～ 36kg）	・トヨタ純正 ジュニアシート	汎用

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置	
			リヤシート	
			右席	左席
キャリコット	F	ISO/L1	×	×
	G	ISO/L2	×	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL	IL
0^{+}（13kg まで）	E	ISO/R1	IL	IL
	D	ISO/R2	×	×
	C	ISO/R3	×	×
I（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×	×
	C	ISO/R3	×	×
	B	ISO/F2	IUF, IL	IUF, IL
	B1	ISO/F2X	IUF, IL	IUF, IL
	A	ISO/F3	IUF, IL	IUF, IL

● 上表に記入する記号の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL ：ISOFIX 子供専用シートのリストに示す準汎用（セミユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着については、子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

● ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用
	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
0^{+}（13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用
	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
I（9 ～ 18kg）	B	ISO/F2	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	B1	ISO/F2X		準汎用
	A	ISO/F3		準汎用

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

●お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

●お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。

●体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→P. 112)を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→P. 114)を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例１)：体重が 12 kg の場合、質量グループは「０＋」になります。

(例２)：体重が 15 kg の場合、質量グループは「Ｉ」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例１)：質量グループが「０＋」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

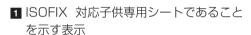
(例２)：質量グループが「Ｉ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B１」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。

子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

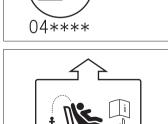
汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。(表示される文字は、製品により異なります)

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー (→P. 120) を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型うしろ向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型うしろ向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	うしろ向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

●背もたれを直立状態にする

●シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置まであげる

●シートをいちばんうしろに下げる

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

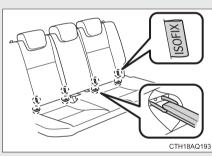
警告

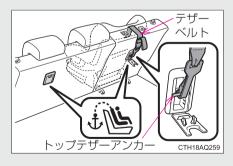
■子供専用シートを使用しない場合

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

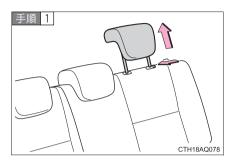
チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

シートベルトによる取り付け
(→P. 121)

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー (→P. 122)

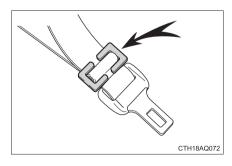
リヤ外側シートに装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)

トップテザーアンカー
(→P. 122)

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤ外側シートに装備されています。

シートベルトで固定する

ヘッドレストをいちばん上まで上げる（→P. 74）

チャイルドシートにシートベルトを取り付け※、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする。

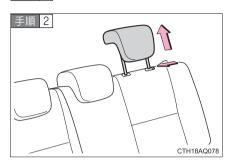
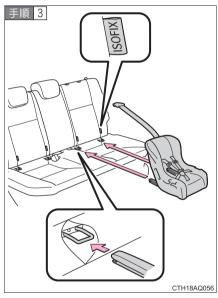
チャイルドシートに付属の取扱書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

※チャイルドシートがヘッドレストにかかる場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。（→P. 74）

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ　品番：73119-22010）

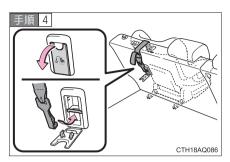
取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

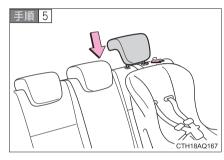
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する

手順 1 パッケージトレイ★を取りはずす（→P. 279）

ヘッドレストをはずす（→P. 74）

固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取扱説明書に従ってください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

フタを開けてトップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

チャイルドシートがヘッドレストにかからない場合は、ヘッドレストを取り付ける（→P. 74）

ヘッドレストは最上段ロック位置に固定してください。

取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する

警告

■**チャイルドシートについて**

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。
- SRS サイドエアバッグ & SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**チャイルドシートを取り付けるときは**

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。併せて参照してください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

CTH18AQ195

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
  助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- ヘッドレストの取りはずしが必要な場合は、安全な場所にしっかりと固定しておいてください。

CTH18AQ203

- リヤ右側席にチャイルドシートを取り付けたときはリヤ中央席に座らないでください。シートベルトとチャイルドシートが干渉しシートベルトが正しく着用できず、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

2 運転するときに

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

■ ハイブリッドシステムを始動する

→P. 140, 144

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P. 159）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 163）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。（→P. 159）

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 シフトレバーを P にする（→P. 159）

手順 3 パーキングブレーキをかける（→P. 163）

手順 4 **スマートエントリー & スタートシステム非装着車**

エンジン スイッチを“LOCK”にしてハイブリッドシステムを停止する

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“パワー”スイッチを押してハイブリッドシステムを停止する

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→P. 206）

■燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。P. 42 の「ハイブリッド車運転のアドバイス」を参照してください。

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

警告

■**発進するときは**

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■**運転するときは**

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置を ON にしても、周囲の騒音などが大きい場合は、周囲の人は車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

警告

- 車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になる他、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡に至るおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
  なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 415を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
  フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。（→P. 160）
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
  運転を誤り、思わぬ事故の原因になって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■すべりやすい路面を運転するときは

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがＰまたはＮ以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。
ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■停車するときは

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
  シフトレバーがＰまたはＮ以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

●長時間 READY インジケーターが点灯したままにしないでください。
どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■**駐車するときは**

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

警告

- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
  ハイブリッド車は走行できる状態（READY インジケーターが点灯している状態）になっていても、音や振動がない場合があります。
- READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
  やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、READY インジケーターが点灯したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 換気が悪い場所ではハイブリッドシステムを停止してください。
  特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■仮眠するときは

必ずエンジン スイッチを“LOCK”(スマートエントリー&スタートシステム非装着車)、または“パワー”スイッチをOFF(スマートエントリー&スタートシステム装着車)にしてください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるときは

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは2つ以上の独立したシステムで構成されており、1つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

⚠ 注意

■運転中は

- ●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- ●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

- ●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

注意

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP. 367, 377をご覧ください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジンオイル･ハイブリッド用トランスミッションフルードなどの量および質の変化

●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

■ ハイブリッドシステムの始動方法

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む

手順 4

CTH21AQ046

エンジン スイッチを “START” の位置にまわす

完全にハイブリッドシステムが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

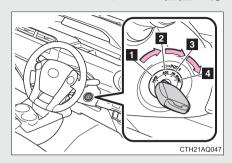
手順 5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅から点灯にかわり、ブザーが鳴れば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

READY インジケーターが点灯していれば、エンジンが停止していても走行できます。（車両の状態に応じて、エンジンは自動で始動・停止します）

■ エンジン スイッチの位置の切りかえ

CTH21AQ047

1 “LOCK”(OFF)

- ステアリングロックがかかります。
- シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しすることができます。

2 “ACC”

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

3 “ON”

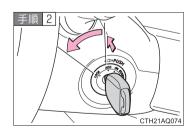
すべての電装品が使用できます。

4 “START”

ハイブリッドシステムが始動できます。

知識

■キーを“ACC”から“LOCK”にまわすには

手順 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 2 キーを押し込みながら“LOCK”までまわす

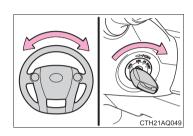
CTH21AQ074

■高電圧リレーの音について

ハイブリッドシステム始動時および停止時に、車両後方から“コトン”、“カチッ”などの音が聞こえることがあります。これは高電圧リレーの音で、異常ではありません。

■外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、エンジン スイッチをまわしてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行ってもREADYインジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→P. 345, 354

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジン スイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

⚠ 警告

■ハイブリッドシステムを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はエンジン スイッチを“LOCK”にしないでください。
緊急時は走行中にエンジン スイッチを“ACC”にしてください。走行中にハイブリッドシステムが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。（→P. 415）

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステム停止中は、エンジン スイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

パワー（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動または“パワー”スイッチのモードを切りかえることができます。

■ ハイブリッドシステムの始動方法

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

シフトレバーが P 以外の位置にあるとハイブリッドシステムを始動できないことがあります。（→P. 159）

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む

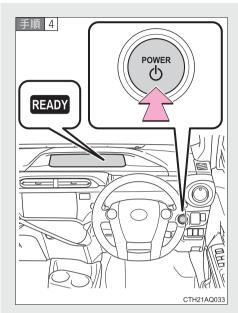
マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

スマートエントリー&スタートシステム表示灯（→P. 175）が緑色に点灯します。

緑色に点灯していないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

マルチインフォメーションディスプレイ装着車

マルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

“パワー”スイッチを押す

完全にハイブリッドシステムが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

“パワー”スイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。

手順 5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅から点灯にかわり、ブザーが鳴れば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

READY インジケーターが点灯していれば、エンジンが停止していても走行できます。（車両の状態に応じて、エンジンは自動で始動・停止します）

■ ハイブリッドシステムの停止方法

手順 1 車両を完全に停止させる

手順 2 シフトレバーをＰの位置にする

手順 3 パーキングブレーキをかける（→P. 163）

手順 4 “パワー”スイッチを押す

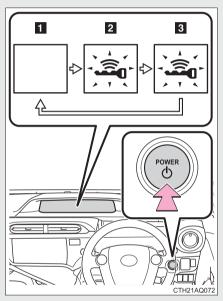
手順 5 **マルチインフォメーションディスプレイ非装着車**
ブレーキペダルからゆっくり足を離した状態にして、スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が消灯していることを確認する

マルチインフォメーションディスプレイ装着車
ブレーキペダルからゆっくり足を離した状態にして、マルチインフォメーションディスプレイの

の表示が消灯していることを確認する

■“パワー”スイッチ切りかえ

ブレーキペダルを踏まずに“パワー”スイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります。）

マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

1 OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が消灯します。

2 アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

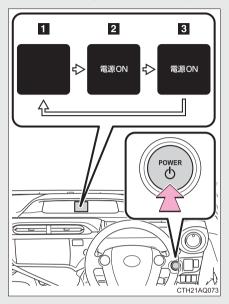
スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

3 ON モード

すべての電装品が使用できます。

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

※：シフトレバーがＰ以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

マルチインフォメーションディスプレイ装着車

1 OFF※

非常点滅灯が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイの 電源ON の表示が消灯します。

2 アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに 電源ON が表示されます。

3 ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに 電源ON が表示されます。

※：シフトレバーがP以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

シフトレバーがＰ以外でハイブリッドシステムを停止したときは

シフトレバーがＰ以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、“パワー”スイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーをＰの位置にする

手順 3 **マルチインフォメーションディスプレイ非装着車**

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅していることを確認し、“パワー”スイッチを１回押す

マルチインフォメーションディスプレイ装着車

マルチインフォメーションディスプレイに 電源ON が表示されていることを確認し、“パワー”スイッチを 1 回押す

手順 4 **マルチインフォメーションディスプレイ非装着車**

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が消灯していることを確認する

マルチインフォメーションディスプレイ装着車

マルチインフォメーションディスプレイの 電源ON の表示が消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき 20 分以上アクセサリーモードまたは 1 時間以上 ON モード（ハイブリッドシステムが始動していない状態）にしたままにしておくと、“パワー”スイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが始動していないときは、“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■高電圧リレーの音について

ハイブリッドシステム始動時および停止時に、車両後方から“コトン”、“カチッ”などの音が聞こえることがあります。これは高電圧リレーの音で、異常ではありません。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 56

■外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 53

■ご留意いただきたいこと

→P. 54

■ハイブリッドシステムが始動しないときは

●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P. 98)トヨタ販売店へ連絡してください。

マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

●シフトレバーが P の位置にあるか確認してください。ハイブリッドシステムを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとステアリングロック機能が作動しハイブリッドシステムを始動できないことがあります。スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色に速く点滅します。

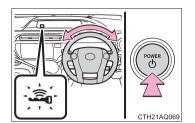
マルチインフォメーションディスプレイ装着車

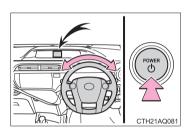
●シフトレバーが P の位置にあるか確認してください。ハイブリッドシステムを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとステアリングロック機能が作動しハイブリッドシステムを始動できないことがあります。マルチインフォメーションディスプレイに“始動時は P レンジに入れて下さい”が表示されます。

■ステアリングロックについて

“パワー”スイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。“パワー”スイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないときは

マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

●スマートエントリー&スタートシステム表示灯が緑色に速く点滅します。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら“パワー”スイッチを押してください。

マルチインフォメーションディスプレイ装着車

●マルチインフォメーションディスプレイに“ステアリングロック未解除”が表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら“パワー”スイッチを押してください。

■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にハイブリッドシステムの始動・停止を繰り返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行ってもREADYインジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→P. 345, 354

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 321

■“パワー”スイッチの操作について

- “パワー”スイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。
- “パワー”スイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。“パワー”スイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムをキャンセルしたときは

→P. 426

⚠ 警告

■ハイブリッドシステムを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

ハイブリッドシステムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■スマートエントリー&スタートシステム表示灯が黄色に点滅したときは（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに“スマートエントリー&スタートシステムチェック”が表示されたときは（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、“パワー”スイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。（→P. 415）
ただし、緊急時以外は走行中に“パワー”スイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

- ハイブリッドシステム停止中は、“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- マルチインフォメーションディスプレイ非装着車：
ハイブリッドシステム停止中に､スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が点灯している場合、“パワー”スイッチが OFF になっていません。“パワー”スイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- マルチインフォメーションディスプレイ装着車：
ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイに 電源ON が表示されている場合、“パワー”スイッチが OFF になっていません。“パワー”スイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーがＰ以外でハイブリッドシステムを停止させないでください｡シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、“パワー”スイッチがアクセサリーモードとなるため､そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■ハイブリッドシステムを始動するとき

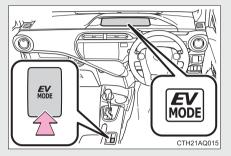
もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■“パワー”スイッチの操作について

“パワー”スイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池を使い電気モーターを駆動して走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

CTH21AQ015

EV ドライブモードの ON･OFF を切りかえる

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。

知識

■ガソリンエンジンが冷えているときのEVドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EVドライブモードに切りかえることができなくなります。
ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前にEVドライブモードスイッチを押してください。

■EVドライブモードの切りかえについて

次のときはEVドライブモードに切りかわらない場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイ非装着車
EVドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴ります。

マルチインフォメーションディスプレイ装着車
EVドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ●ハイブリッドシステムが高温のとき
  炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ●ハイブリッドシステムが低温のとき
  約0℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど
- ●ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- ●駆動用電池の充電量が低いとき
  メーターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P. 37, 39）
- ●車速が高いとき
- ●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- ●フロントウインドウガラス曇り取りを使用しているとき

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。

マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

マルチインフォメーションディスプレイ装着車

EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

- ●駆動用電池の充電量が低下したとき
- ●車速が高いとき
- ●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は、車速約 55 km/h 以下で、数百 m から約 2 km 程度です。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

アクアは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費が良くなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

■車両接近通報装置の通報音について

EV ドライブモードを ON にしていても、車両接近通報装置が ON のときは通報音が鳴ることがあります。（通報音の ON・OFF 切りかえ：→P. 26）

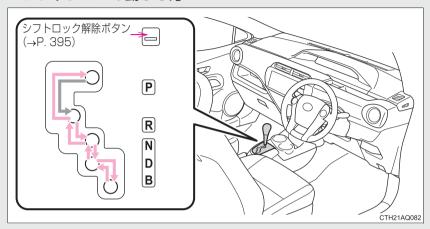
警告

■走行中の警告

EV ドライブモードでの走行は、エンジン音がしないため、車両接近通報装置を ON にしていても歩行者・自転車・付近の人や車が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。十分注意して運転してください。

トランスミッション

状況に応じてシフトポジションを選択してください。

■ シフトレバーの動かし方

スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが“ON”の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

スマートエントリー&スタートシステム装着車
“パワー”スイッチが ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P から他ポジション、または D から R・P、および R から P・D・B へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

知識

■P ポジションからのシフト操作について

P ポジションから他ポジションへシフトするときは、必ずブレーキペダルを踏んでください。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。ブレーキペダルを踏んでいるのにシフトできないときは、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。(→P. 395)

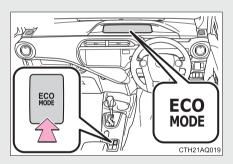
ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
B	坂道や急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき

※　燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

■ エコドライブモードの選択

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房・冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

スイッチを押して、エコドライブモードの ON・OFF を切りかえる

スイッチを押すと、メーター内の ECO MODE 表示灯が点灯します。

通常走行モードにもどすときは再度スイッチを押します。

知識

■エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは暖房・冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。（→P. 227）空調の効きをより良くしたいときは、設定温度や風量を調整するか、またはエコドライブモードを解除してください。

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

警告

■すべりやすい路面では

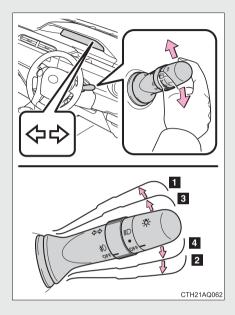
急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

注意

■駆動用電池の充電について

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

方向指示レバー

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

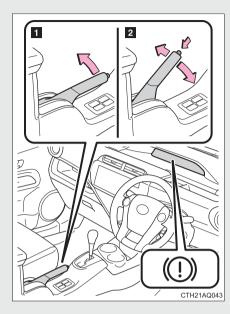
知識

■作動条件

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが“ON”のとき

スマートエントリー＆スタートシステム装着車
“パワー”スイッチが ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

1 パーキングブレーキをかけるには、ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く

2 パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどす

知識

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま、車速が5 km/h をこえたとき、警告ブザーが鳴ります。(→P. 344, 356)

■冬季のパーキングブレーキの使用について

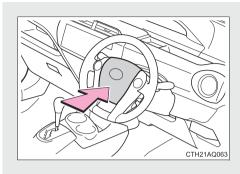
→P. 215

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

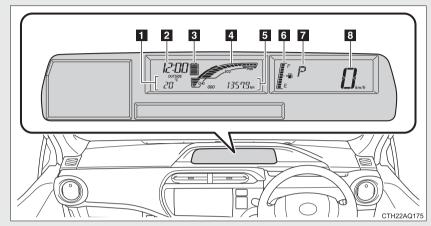
CTH21AQ063

ハンドルの 📯 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→ P. 84）

計器類

マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

1 ドライブモニター

→P. 167

2 時計

→P. 269

3 駆動用電池残量表示

現在の駆動用電池残量を 8 段階で表示します。(→P. 37, 39)

4 ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを表示します。(→P. 171)

5 オドメーター/トリップメーター/航続可能距離/メーター照度調整表示

→P. 169

6 燃料計

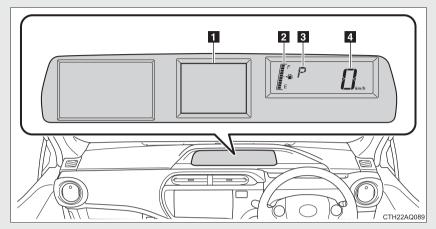
燃料残量を示します。

7 シフトポジション表示

現在選択されているシフトポジションを表示します。(→P. 160)

8 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

マルチインフォメーションディスプレイ装着車

1 マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関する様々な情報を表示します。(→P. 177)

2 燃料計

燃料残量を示します。

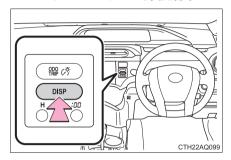
3 シフトポジション表示

現在選択されているシフトポジションを表示します。(→P. 159)

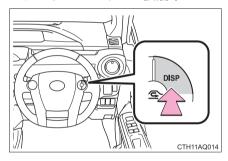
4 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

ドライブモニター（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）

■ 表示を切りかえるには

ステアリングスイッチ非装着車

DISP スイッチを押すごとに表示が切りかわります。

ステアリングスイッチ装着車

DISP スイッチを押すごとに表示が切りかわります。

■ 表示される項目

1 外気温度

→P. 270

2 平均燃費

オドメーターとトリップメーターのどちらを表示しているかによって、表示内容が異なります。

● オドメーター表示時：ハイブリッドシステムを始動してからの平均燃費を表示します。

● トリップメーター表示時：トリップメーター A・B それぞれの平均燃費を表示します。

・ トリップメーターをリセットすると、平均燃費もリセットされます。(→P. 170)
・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

3 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

4 平均車速

オドメーターとトリップメーターのどちらを表示しているかによって、表示内容が異なります。

● オドメーター表示時：ハイブリッドシステムを始動してからの平均車速を表示します。

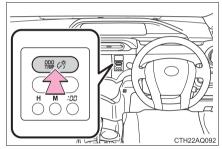
● トリップメーター表示時：トリップメーター A・B それぞれの平均車速を表示します。

トリップメーターをリセットすると、平均車速もリセットされます。(→P. 170)

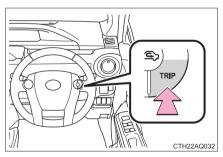
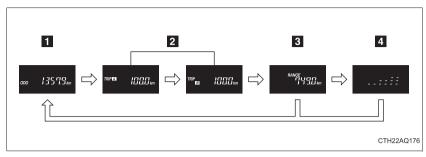
5 画面 OFF

ドライブモニター、ハイブリッドシステムインジケーター、駆動用電池残量表示、EV 走行インジケーターランプの表示を消すことができます。

オドメーター／トリップメーター／航続可能距離／メーター照度調整表示（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）

■ 表示を切りかえるには

ステアリングスイッチ非装着車

TRIP スイッチを押すごとに表示が切りかわります。

ステアリングスイッチ装着車

TRIP スイッチを押すごとに表示が切りかわります。

■ 表示される項目

1 オドメーター

走行した総距離を表示します。

2 トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップメーターは、A・B の 2 種類で使い分けることができます。

トリップメーター表示中に TRIP スイッチを押し続けると、走行距離はリセットされ 0 にもどります。

3 航続可能距離

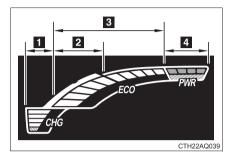
現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
  スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
  給油の際はエンジン スイッチを“LOCK”にしてください。万一、エンジンスイッチを“LOCK”にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。
  スマートエントリー&スタートシステム装着車：
  給油の際は“パワー”スイッチを OFF にしてください。万一、“パワー”スイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

4 メーター照度調整表示

メーターの照度を表示します。（ヘッドランプスイッチが ON の時のみ表示されます。）

メーター照度表示中に TRIP スイッチを押し続けると、照度を調整できます。

ハイブリッドシステムインジケーター（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）

1 チャージエリア

エネルギーが回生※されている状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※：ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

2 ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

3 エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

4 パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

インジケーターをエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

知識

■メーター・マルチインフォメーションディスプレイの作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車
“パワー”スイッチが ON モードのとき

■メーター照度の減光制御について

ヘッドランプスイッチが ON になると、メーター照明が減光されます。ただし、照明をいちばん明るくした状態では、ヘッドランプスイッチが ON になってもメーター照明は減光されません。

■エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■補機バッテリー端子の脱着をしたときは（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）

補機バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- 時計
- 航続可能距離
- 平均燃費
- 平均車速

また、メーター照度は初期設定の状態にもどります。

⚠ 注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）

この車両には、水温計のかわりに高水温警告灯（→P. 345）が装備されています。高水温警告灯が点滅、点灯したときはオーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。（→P. 408）

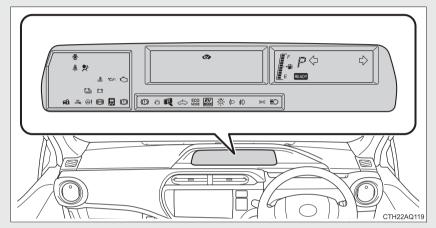
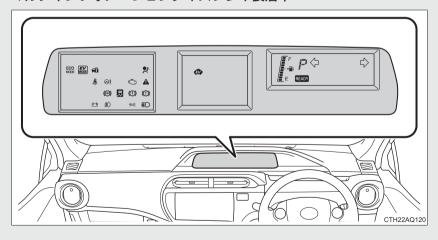
■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

この車両には、水温計は装備されていません。かわりにマルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。マルチインフォメーションディスプレイに が表示されたときはオーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。（→P. 408）

表示灯／警告灯

メーター内の表示灯／警告灯でお車の状況をお知らせします。

次のイラストは、説明のためすべての表示灯／警告灯を示しています。

マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

マルチインフォメーションディスプレイ装着車

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
(→P. 162)

ハイビーム表示灯
(→P. 193)

尾灯表示灯(→P. 193)

★
フロントフォグランプ表示灯(→P. 198)

★
イモビライザーシステム表示灯(→P. 98)

READY インジケーター
(→P. 140, 144)

★
(緑色)
スマートエントリー&スタートシステム表示灯
(→P. 144)

EV ドライブモード表示灯
(→P. 156)

シフトポジション表示灯
(→P. 160)

ECO MODE

ECO MODE 表示灯
(→P. 160)

EV 走行インジケーターランプ(→P. 27, 184)

※
(点滅)
スリップ表示灯
(→P. 207)

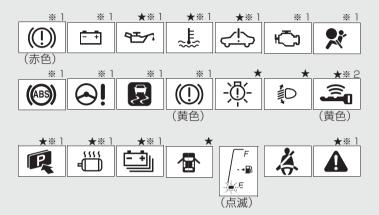
※ 作動確認のためにエンジン スイッチを“ON”(スマートエントリー&スタートシステム非装着車)または“パワー”スイッチを ON モード(スマートエントリー&スタートシステム装着車)にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

2

運転するときに

★: 仕様により異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 344)

※1 作動確認のためにエンジン スイッチを "ON"(スマートエントリー＆スタートシステム非装着車)または "パワー" スイッチを ON モード(スマートエントリー＆スタートシステム装着車)にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 黄色に点滅した場合はシステム異常のおそれがあります。緑色に速く点滅した場合はステアリングロックが解除できていないことを示します。

⚠ 警告

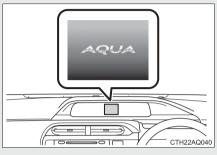
■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、ハイブリッドシステムを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★: 仕様により異なる装備やオプション装備

マルチインフォメーションディスプレイ★

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関する様々な情報を表示します。

CTH22AQ040

● 走行に関する情報

ハイブリッドシステムの動作状況や燃費の情報などを表示します。

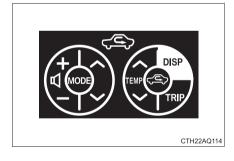
● 画面の設定

日付・時刻の修正や、画面の設定・変更を行います。

● 警告メッセージ（→P. 354）

各システムに異常が発生すると、自動で表示されます。

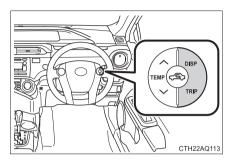
タッチトレーサーディスプレイ

CTH22AQ114

ステアリングスイッチにふれると、表示画面の上にスイッチのイラストが重ねて表示され、手元を見ていなくてもどのスイッチを操作しているか判断できます。

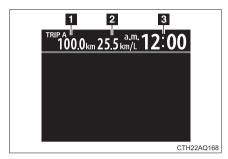
タッチトレーサーの画面は、表示しないように設定を変更できます。（→P. 188）

メーカーオプションおよび、この車のステアリングスイッチに対応している販売店装着オプションのオーディオ・ナビゲーションシステム以外で使用すると、オーディオスイッチの表示が正常に作動しない場合があります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

表示を切りかえるには

ディスプレイに表示される項目を切りかえるには、ハンドルの DISP スイッチを操作します。また、項目によっては TRIP スイッチを使用します。

画面上部に表示される項目

画面上部には、次の項目が常に表示されています。（画面設定時など一部のメニューでは表示されません。）

1 オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整表示
→P. 180

2 平均燃費

オドメーターとトリップメーターのどちらを表示しているかによって、表示内容が異なります。表示される平均燃費は、参考として利用してください。

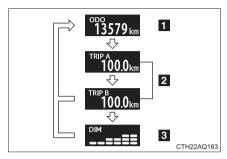
- オドメーター表示時：ハイブリッドシステムを始動してからの平均燃費を表示します。
- トリップメーター表示時：トリップメーターをリセットしてからの平均燃費を表示します。トリップメーターA・Bそれぞれの平均燃費を表示します。

トリップメーターをリセットすると、平均燃費もリセットされます。(→P. 180)

3 時計

設定画面で時刻を調整します。（→P. 188）

■ オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整表示

TRIP スイッチを押すごとに次のように切りかわります。

1 オドメーター

走行した総距離を表示します。

2 トリップメーター

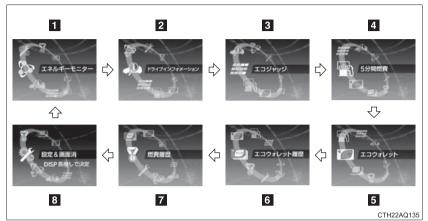
リセットしてからの走行距離を表示します。トリップメーターは、A・B の 2 種類で使い分けることができます。

トリップメーター表示中に TRIP スイッチを押し続けると、走行距離はリセットされ 0 にもどります。

3 メーター照度調整表示

メーターの照度を表示します。（ヘッドランプスイッチが ON の時のみ表示されます。）

メーター照度表示中に TRIP スイッチを押し続けると、照度を調整できます。

メニューの切りかえ

DISP スイッチを押すごとにメニュー画面が切りかわります。表示させたいメニューで指を離すと詳細画面に切りかわります。

ただし、設定＆画面消メニューのみ DISP スイッチを押し続けると詳細画面に切りかわります。

1 エネルギーモニター

ハイブリッドシステムの動作状況を確認できます。(→P. 37)

2 ドライブインフォメーション

平均車速／走行時間／ EV 走行比率･EV 走行距離／航続可能距離／外気温度(→P. 270)を表示します。(→P. 182)

3 エコジャッジ

エコ運転の状況を判定し表示します。(→P. 184)

4 5 分間燃費※

5 分ごとの燃費を表示します。瞬間燃費を同時に表示し、過去の燃費との比較ができます。(→P. 39)

5 エコウォレット

ガソリン価格を入力すると、走行距離に応じて消費したガソリンの金額を表示します。また、任意の燃費を入力すると、実際に走行した燃費との差がお得金額として表示されます。(→P. 185)

6 エコウォレット履歴※

エコウォレットの履歴を表示します。(→P. 186)

7 燃費履歴※

過去の燃費のベスト 3 と現在の順位を表示します。また、月ごとの平均燃費を表示します。(→P. 40)

8 設定 & 画面消

それぞれの画面の設定・変更や、日付合わせ・時刻合わせなどができます。(→P. 188)

※出荷時(初期設定)はすべて OFF に設定されています。(→P. 190)

■ ドライブインフォメーション

平均車速、走行時間、EV 走行比率・EV 走行距離はオドメーターとトリップメーターのどちらを表示しているかによって、表示内容が異なります。

- オドメーター表示時:ハイブリッドシステムを始動してからの記録を表示します。
- トリップメーター表示時:トリップメーターをリセットしてからの記録を表示します。トリップメーター A・B それぞれの記録を表示します。

トリップメーターをリセットすると、記録もリセットされます。(→P. 180)

1 平均車速

平均車速を表示します。

2 走行時間

走行時間を表示します。

3 EV 走行比率・EV 走行距離

EV 走行比率と距離(電気モーターのみで走行している割合と距離)を表示します。

4 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

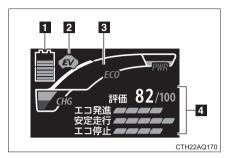
- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

  スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
  給油の際はエンジン スイッチを“LOCK”にしてください。万一、エンジンスイッチを“LOCK”にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

  スマートエントリー&スタートシステム装着車：
  給油の際は“パワー”スイッチを OFF にしてください。万一、“パワー”スイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

5 外気温度

→P. 270

■ エコジャッジ

1 駆動用電池残量表示

2 EV 走行インジケーターランプ

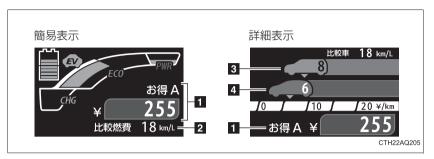
ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに点灯します。

3 ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを表示します。(→P. 187)

4 エコ運転状況の表示

運転の状況を、エコ発進・安定走行・エコ停止の 3 パターンに分け、5 段階で表示します。また、車両が停止するたびに点数を表示します。(発進するごとにリセットされ、積算は行いません。)

■ エコウォレット

２種類の表示で、消費したガソリン価格の表示や燃費の比較をすることができます。

簡易表示と詳細表示は、設定画面で切りかえることができます。(→P. 189)

1 お得または消費金額

比較したい任意の燃費数値を入力（→P. 189）するとお得金額を表示し、入力しなければ消費金額を表示します。

オドメーターとトリップメーターのどちらを表示しているかによって、表示内容が異なります。

- オドメーター表示時：ハイブリッドシステムを始動してからの金額を表示します。
- トリップメーター表示時：トリップメーターをリセットしてからの金額を表示します。トリップメーターA・Bそれぞれの金額を表示します。

トリップメーターをリセットすると、金額もリセットされます。(→P. 180)

2 比較燃費

設定画面で、比較したい任意の燃費数値を入力します。（→P. 189）

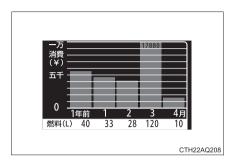
3 1km あたりの消費ガソリン価格（比較車）

比較燃費をもとに計算された数値が表示されます。

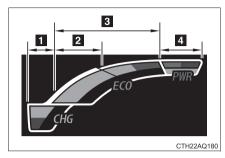
4 1km あたりの消費ガソリン価格（自車）

ガソリン消費の少ない（エコノミーな）運転をするほど、左側へマークが移動します。

■ エコウォレット履歴

CTH22AQ208

エコウォレットで比較燃費を入力するとお得金額の履歴を表示し、入力しなければ消費金額の履歴を表示します。
今月、過去 3 か月分と 1 年前の同月を表示し、比較することができます。

金額が 1 万円をこえた場合は、グラフに加え数字も表示します。

ハイブリッドシステムインジケーター

1 チャージエリア

エネルギーが回生※されている状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※：ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

2 ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

3 エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

4 パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

インジケーターをエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

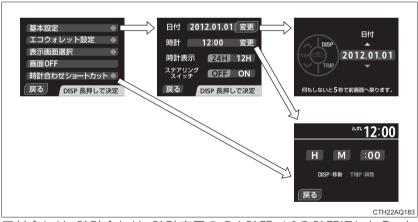
画面の設定

メニューで設定＆画面消を選択すると、次の内容を設定できます。必ず安全な場所へ停車し操作してください。(走行中は一部の設定ができなくなります。)

CTH22AQ077J

ステアリングスイッチの DISP を押すたびにカーソルが移動し、設定する項目で DISP を押し続けると、設定画面に切りかわります。

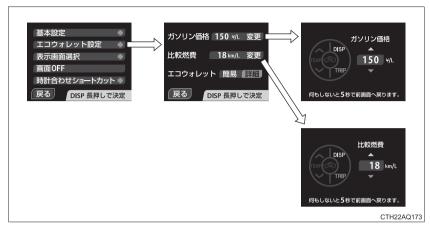
■ 基本設定／時計合わせショートカット

CTH22AQ183

日付合わせ･時計合わせ･時計表示の 24 時間／ 12 時間切りかえ･タッチトレーサー表示の ON/OFF 切りかえができます。

● 日付を合わせるには、DISP（進む）または TRIP（もどる）を押します。

● 時計を合わせるには、DISP で H（時）･M（分）･：00 を選択し TRIP で調整します。

● 時計合わせショートカットを選択すると、時計の設定画面に切りかわります。

■ エコウォレット設定

ガソリン価格の設定・比較燃費の設定・簡易表示／詳細表示の切りかえができます。

● ガソリン価格を入力するには、DISP（上昇）または TRIP（下降）を押します。

給油後にエンジン スイッチを“ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または“パワー”スイッチを ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にすると、自動でガソリン価格入力画面が表示されます。

● 比較燃費を入力するには、DISP（上昇）または TRIP（下降）を押します。

比較燃費を入力すると、エコウォレット画面が「お得」表示になります。また、OFF にした場合はエコウォレット画面が「消費」表示になります。

■ 表示画面選択

CTH22AQ082J

次の画面の切りかえや設定ができます。

- エコウォレット履歴画面のON/OFF 切りかえ
- 5 分間燃費画面の ON/OFF 切りかえ
- 燃費履歴のリセット
- 燃費履歴画面の切りかえ（OFF／月平均／自己ベスト）

■ 画面 OFF

画面を消すことができます。

画面上部は常に表示され、消すことはできません。

今回の走行結果表示

CTH22AQ174

ハイブリッドシステムを停止すると、エンディングムービーを表示したあと、ハイブリッドシステム始動時からの走行データを一覧で表示します。

ドアをロックすると画面は消えます。

知識

■時刻が表示されるとき

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが“ON”のとき

スマートエントリー＆スタートシステム装着車
“パワー”スイッチが ON モードのとき

■メーター照度の減光制御について

ヘッドランプスイッチが ON になると、メーター照明が減光されます。ただし、照明をいちばん明るくした状態では、ヘッドランプスイッチが ON になってもメーター照明は減光されません。

■エコジャッジについて

走行条件や環境によって評価点は変化します。そのため、燃費とリンクしない場合があります。

■エコウォレットについて

●消費金額・お得金額は目安として利用してください。

●給油のしかた・走行条件・環境などによって、実際に給油したときの金額と画面に表示される金額に差が出る場合があります。

●消費金額・お得金額は、エコジャッジの評価点とはリンクしない場合があります。

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

補機バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- ●時計
- ●燃費履歴 (4 位以下)
- ●平均燃費
- ●航続可能距離
- ●平均車速
- ●走行時間
- ●EV 走行比率・EV 走行距離

また、一部の表示は初期設定の状態にもどります。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象で、異常ではありません。

⚠警告

■エコジャッジについて

エコジャッジは目安として利用してください。必ず交通状況に合わせ、周囲の安全に注意して運転してください。

⚠注意

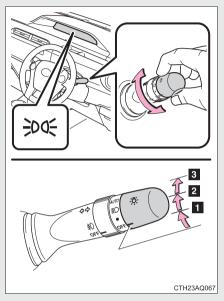
■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

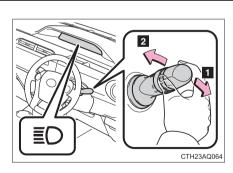
レバーの端をまわすと、次のようにランプが点灯します。

CTH23AQ067

1 ● 車幅灯・尾灯・番号灯・メーター照明を点灯

2 上記ランプとヘッドランプを点灯

3 AUTO★ ヘッドランプ、車幅灯などを自動点灯・消灯（“パワー”スイッチがON モードのとき）

ハイビームにする

CTH23AQ064

1 ランプ点灯時ハイビームに切りかえ

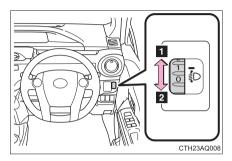
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドランプ装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

1 上向きに調整

2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

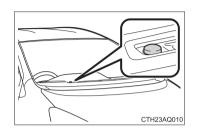
G's を除く

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置	
乗員	荷物	一体可倒リヤシート装着車	分割可倒リヤシート装着車
運転者	なし	0	0
運転者と助手席乗員	なし	0	0
全乗員	なし	2	2
全乗員	ラゲージルーム満載時	2.5	3
運転者	ラゲージルーム満載時	4.5	5

G's

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1.5
全乗員	ラゲージルーム満載時	2.5
運転者	ラゲージルーム満載時	3.5

知識

■ライトセンサー（ランプ自動点灯・消灯システム装着車）

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ランプ消し忘れ防止機能★

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”にして運転席ドアを開けるとヘッドランプ・尾灯が消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジン スイッチを“ON”にするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≡D の位置にします。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとヘッドランプ・尾灯・フロントフォグランプ★が消灯します。

再びランプを点灯する場合は、“パワー”スイッチを ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≡D の位置にします。

■オートレベリングシステム（LED ヘッドランプ装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■節電機能★

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジン スイッチが“ACC”または“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または“パワー”スイッチがアクセサリーモードまたは OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。
次のいずれかをおこなった場合、節電機能は解除されます。

・エンジン スイッチを“ON”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または“パワー”スイッチを ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にしたとき
・ランプスイッチを操作したとき
・ドアを開閉したとき

■販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 426）

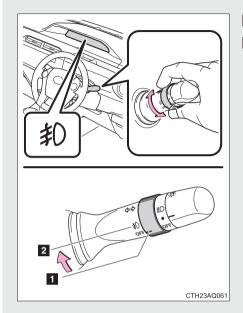
⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

フォグランプスイッチ★

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

1 消灯する

2 点灯する

知識

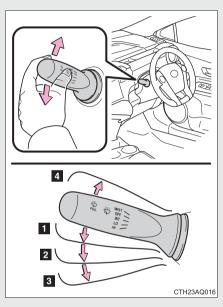
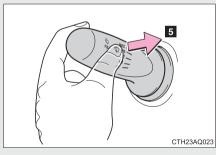
■点灯条件

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）

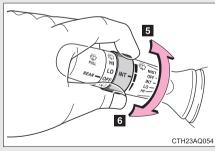
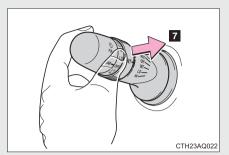
間欠ワイパー

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

1 間欠作動（INT）
2 低速作動（LO）
3 高速作動（HI）
4 一時作動（MIST）

5 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

間欠時間調節式ワイパー
“INT” を選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

1 間欠作動（INT）
2 低速作動（LO）
3 高速作動（HI）
4 一時作動（MIST）

5 間欠ワイパーの作動頻度（減）
6 間欠ワイパーの作動頻度（増）

7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■フロントガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

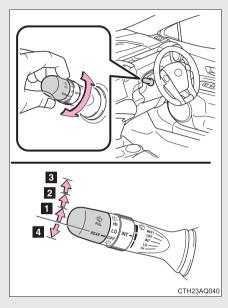
■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）★

次のようにレバーをまわしてワイパーの作動を選択します。

CTH23AQ040

1 間欠作動（LO）

2 通常作動（HI）

3 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

4 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

⚠ 注意

■窓ガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

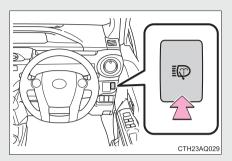
■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ヘッドランプクリーナー★

ヘッドランプにウォッシャー液を噴射します。

CTH23AQ029

スイッチを押してヘッドランプを洗浄する

知識

■作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”でヘッドランプが点灯しているとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“パワー”スイッチが ON モードでヘッドランプが点灯しているとき

注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ヘッドランプクリーナースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

★: 仕様により異なる装備やオプション装備

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

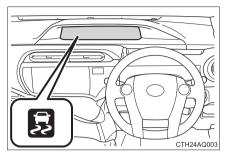
■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

TRC・VSC・ABS が作動しているとき

CTH24AQ003

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

知識

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルを強く踏んだり、くり返し踏んだりしたとき、およびハイブリッドシステム停止後 1 ～ 2 分経過時に、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・ 車体やハンドルに振動を感じる
・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音 (“ウィーン”という音) が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルペダルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトレバーを P または N の位置にした

●アクセルペダルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

⚠ 警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロール

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面では、ヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSC・ABS が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

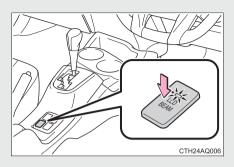
⚠ 警告

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 423）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

LED イルミネーションビーム★

ON・OFF

ON のときはスイッチ上のインジケーターが点灯します。

知識

■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムを停止した状態で LED イルミネーションビームを長時間点灯しないでください。

★: 仕様により異なる装備やオプション装備

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

⚠ 警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- ●燃料が入った容器
- ●スプレー缶

■荷物を積むときは

次の警告をお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- ●次の場所には荷物を積まないでください。
  お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  - ・運転席足元
  - ・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
  - ・パッケージトレイ★
  - ・インストルメントパネル
  - ・ダッシュボード
- ●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
  安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。
- ●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
  急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。
- ●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
  乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
  お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● 補機バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン※（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーン※はタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて →P. 290）

※ G's を除く

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分に拭き取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

● 乗車する前に靴底についた雪をよく落としてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

■駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■タイヤチェーンについて

G's を除く

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ～ 1.0 km 走行したら締め直しを行う

G's

この車には、タイヤチェーンは装着できません。

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

⚠ 警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告（G's を除く）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル・急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■タイヤチェーンの使用について（G's を除く）

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方 3

3-1. エアコンとデフォッガーの使い方

3-2. オーディオの使い方

3-3. 室内灯のつけ方

3-4. 収納装備の使い方

3-5. その他の室内装備の使い方

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

G's を除く

G's

フロント
ウインドウ
ガラス曇り取り
設定温度表示
風量表示
冷房・除湿機能の ON・OFF
吹き出し口表示
FRONT
REAR
20.0
TEMP
A/C
OFF
AUTO
外気導入・内気
循環の切りかえ
吹き出し口切りかえ
風量切りかえ
オート設定
温度調整ダイヤル
送風停止
CTH31AQ061

オート設定を使うとき

手順 1 AUTO を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2 設定温度を上げるときは を右へまわし、下げるときは左へまわす

手順 3 A/C を押す

ボタンを押すたびに冷房・除湿機能の ON・OFF が切りかわります。

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

お好みの設定で使うとき

手順 1 風量を上げるときは の ∧ 側を押し、下げるときは ∨ 側を押す

送風を止めるときは

を押します。

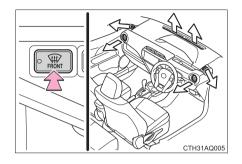
手順 2 設定温度を上げるときは

を右へまわし、下げるときは左へまわす

手順 3 吹き出し口を切りかえるには、 を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。（→P. 223）

フロントウインドウガラスの曇りを取るには

CTH31AQ005

 を押す

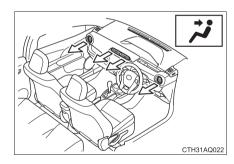
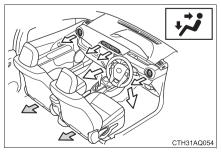
除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に切りかわる場合もあります）
風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

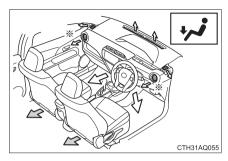
曇りが取れたら再度 を押すと前のモードにもどります。

吹き出し口と送風について

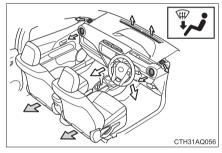
CTH31AQ022

上半身に送風

CTH31AQ054

上半身と足元に送風

：寒冷地仕様車のみ

足元に送風

※暖房時は足元だけでなく、上半身の暖房効果を高めるため、上半身へも送風されます。

：寒冷地仕様車のみ

足元に送風・ガラスの曇りを取る

：寒冷地仕様車のみ

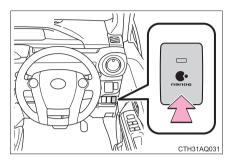
外気導入・内気循環を切りかえるには

 を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します。

「ナノイー」を作動するには★

CTH31AQ031

ON・OFF

風量が OFF になっているときは作動しません。

(「ナノイー」について：→P. 228)

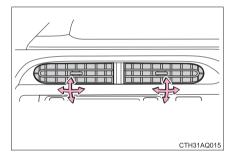
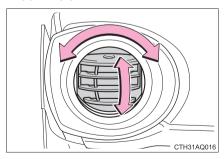
風向きの調整と吹き出し口の開閉

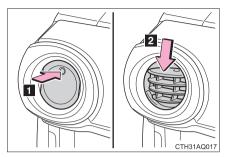
中央吹き出し口

CTH31AQ015

風向きの調整

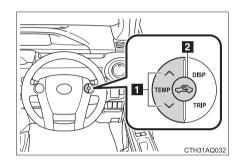
左右吹き出し口

CTH31AQ016

風向きの調整

★：仕様により異なる装備やオプション装備

吹き出し口の開閉

1 開ける

2 閉じる

ステアリングスイッチでの操作★

1 温度調節

温度を上げるときは TEMP の“∧”側を、下げるときは“∨”側を押します。

2 外気導入・内気循環切りかえ

を押すたびに、外気導入・内気循環が切りかわります。

★: 仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

●暖房・冷房の能力を抑制します。

● A/C が ON のとき、内気循環に切りかわる場合があります。

●オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

空調の効きをより良くしたいときは、次の操作をおこなってください。

●設定温度または風量を調整する。

●エコドライブモードを解除する。(→P. 160)

■オート設定の作動について

風量は設定温度と外気の状態により自動で調整されるため、 AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、 A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

A/C を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■「ナノイー」※1 について

エアコンには「ナノイー」技術が搭載されています。この技術は運転席側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性のナノイーイオンを放出し、室内を爽やかな空気で満たします※2。

●「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・ 吹き出し口が 、 または のとき
・ 運転席側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

※1 ：「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2 ：温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→P. 326

■補助ヒーター（PTC ヒーター）について★

ハイブリッドシステム始動直後からガソリンエンジンが暖まるまで、通常のヒーターに加え暖房を補います。

■タッチセンサー内蔵ステアリングスイッチについて（タッチトレーサーディスプレイ装着車）

→P. 177

■カスタマイズ機能

●エコドライブモード時のエアコン制御を、通常走行モードと同じ制御に変更できます。（カスタマイズ一覧→ P. 426）

●エアコン制御を変更すると、変更前に比べてエコドライブモードの燃費性能は若干低下します。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、［FRONT］を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■「ナノイー」について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店に問い合わせください。

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■「ナノイー」の損傷を防ぐために

運転席の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドウガラスの曇りを取るときに使用ください。

REAR
CTH31AQ044

ON・OFF

リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分で自動的に OFF になります。

知識

■作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“パワー”スイッチが ON モードのとき

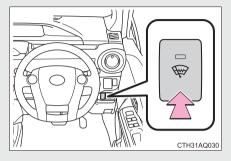
注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、補機バッテリーあがりの原因になります。

フロントワイパーデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

CTH31AQ030

ON・OFF

フロントワイパーデアイサーは、約 15 分で自動的に OFF になります。

知識

■作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

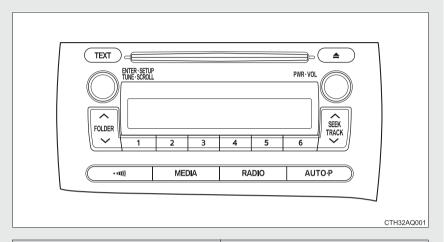
エンジン スイッチが“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“パワー”スイッチが ON モードのとき

警告

■作動中の警告

フロントウインドウガラス下部、およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

オーディオの種類★

CD プレーヤー、AM/FM ラジオ

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■携帯電話の使用

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえることがあります。

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

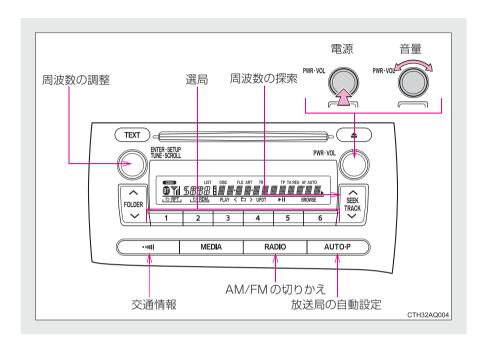
ハイブリッドシステム停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■オーディオの取り扱いについて

オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。

ラジオの使い方

放送局を記憶させる

■ 手動設定

手順 1 ENTER･SETUP TUNE･SCROLL をまわして、または SEEK TRACK の “∧”（高い周波数）または “V”（低い周波数）を押して、お好みの放送局を探す

手順 2 記憶させたいスイッチ 1 ～ 6 を “ピッ” と音が鳴るまで押す

■ 自動設定

AUTO･P を “ピッ” と音が鳴るまで押す

受信感度の良い順に 6 局まで記憶されます。記憶が終了すると “ピッピッ” と音が鳴ります。

交通情報を受信する

[·ıııl] を押す

もう一度押すと解除されます。

知識

■ [·ıııl] について

● 新車時は、1620kHz にセットしてあります。

● AM ラジオモードのとき [·ıııl] を “ピッ”と音が鳴るまで押し続けると、その周波数を [·ıııl] に記憶させることができます。ただし、補機バッテリーとの接続が断たれたときは、1620kHz にもどります。

● [·ıııl] を 押して、ラジオを受信しているときは、[SEEK TRACK]・[ENTER・SETUP TUNE・SCROLL]・[1] ～ [6]・[AUTO·P] を操作しても、周波数は切りかわりません。

■ 補機バッテリーとの接続が断たれたときは

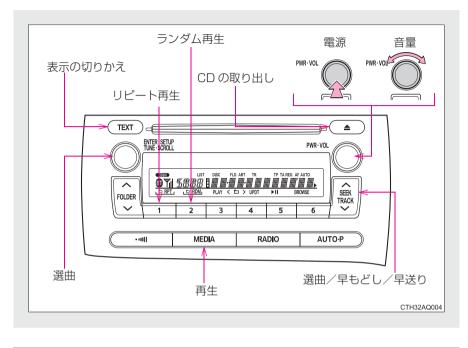
自動設定で記憶されていた放送局は消去されます。

■ 受信感度について

● 走行中はアンテナの位置がそのときどきでかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合もあります。

● [AUTO·P] を使っているとき、自動選局や自動記憶ができないことがあります。

● ラジオ用アンテナはルーフ後方にあります。（→P. 282）

CD プレーヤーの使い方

CD を挿入する

CD を 1 枚、挿入する

CD を取り出す

⏏ を押して CD を取り出す

曲を選ぶ

ENTER・SETUP TUNE・SCROLL をまわして、または SEEK TRACK の “∧”（次曲）または “V”（前曲）を押して聞きたい曲の番号を表示させる

早もどし、早送りする

早もどし、早送りするには、SEEK TRACK の “∧”または“V”を押し続ける

リピート（RPT）再生する

1 （RPT）を押す

もう一度押すまで同じ曲が再生されます。

ランダム（RDM）再生する

2 （RDM）を押す

もう一度押すまで無作為な順序で曲が再生されます。

表示を切りかえる

TEXT を押す

押すごとに、次のように表示が切りかわります。

曲番および経過時間 → CD タイトル → 曲名 → アーティスト名

知識

■表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。

CD タイトル、または曲名が 13 文字以上の場合は、TEXT を 1 秒以上押し続けることにより、13 文字目以降を表示できます。
表示できるのは最大で 24 文字です。

TEXT をもう一度 1 秒以上押す、または約 6 秒以上操作をしないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。
記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■エラー表示

表示	エラーの内容
“CD CHECK”	ディスクが汚れている、裏表逆などで読み取りができない
“ERROR3” “ERROR4”	プレーヤー内部に異常がある
“WAIT”	プレーヤーの温度異常を検出すると、表示部に次の表示が出て自動的にプレーヤーの機能が停止します。この場合、しばらくしてプレーヤーの温度が常温に復帰すると表示が消えて使用可能になります。

■再生可能な CD

次のマークのついたディスクが再生できます。
記録状態やディスクの特性、傷、汚れ、劣化により再生できないことがあります。

コピープロテクト機能付 CD などは使用できません。

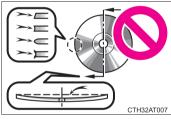
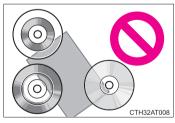
■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生を停止します。

注意

■使用できない CD、アダプター

次のような CD を使用しないでください。
また、8cmCD アダプター、DualDisc、プリンタブルディスク（ラベル面印刷に対応したディスク）も使用しないでください。
使用すると、プレーヤーが故障したり、CD の出し入れができなくなるおそれがあります。

●直径 12cm の円形以外の CD

●低品質または変形している CD

●記録部分が透明または半透明の CD

注意

●セロハンテープ、シール、CD-R 用ラベルなどを貼った CD や、はがしたあとのある CD

■CD プレーヤーの取り扱いについて

次のことをお守りいただかないと、CD が聞けなくなったり、CD プレーヤーが正常に働かなくなるおそれがあります。

●CD 挿入口に CD 以外のものをいれない

●CD プレーヤーにオイルを塗ったりしない

●CD は直射日光を避けて保管する

●CD プレーヤーを分解しない

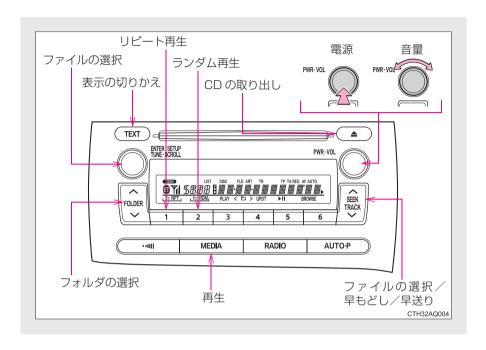
■CD をプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷付き使用できなくなるおそれがあります。

■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

MP3/WMA ディスクの聞き方

リピート再生
ファイルの選択
表示の切りかえ
ランダム再生
CD の取り出し
電源
音量
PWR・VOL
PWR・VOL
TEXT
ENTER・SETUP
TUNE・SCROLL
PWR・VOL
FOLDER
SEEK
TRACK
1 2 3 4 5 6
MEDIA
RADIO
AUTO・P
フォルダの選択
再生
ファイルの選択／
早もどし／早送り
CTH32AQ004

MP3/WMA ディスクを挿入する、または取り出す

→P. 237

早もどし、早送りする

→P. 238

フォルダを選ぶ・最初のフォルダにもどる

の“∧”（次フォルダ）または“V”（前フォルダ）を押して聞きたいフォルダを選ぶ

最初のフォルダにもどるには、“V”を “ピッ”と音が鳴るまで押します。

ファイルを選択する

ENTER・SETUP TUNE・SCROLL をまわして、または SEEK TRACK の“∧”（次ファイル）または“V”（前ファイル）を押して、聞きたいファイルを探す

リピート（RPT）再生する

1（RPT）を押すごとに、次のようにモードが切りかわります。

ファイルリピート → フォルダリピート※ → 解除

※ ランダム（RDM）再生時以外

ランダム（RDM）再生する

2（RDM）を押すごとに、次のようにモードが切りかわります。

フォルダランダム → ディスクランダム → 解除

表示を切りかえる

TEXT を押す

押すごとに、次のように表示が切りかわります。
フォルダ番号・ファイル番号・経過時間 → フォルダタイトル → ファイル名 → ディスクタイトル（MP3 のみ） → 曲名 → アーティスト名

知識

■表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。

CD タイトル、または曲名が 13 文字以上の場合は、TEXT を 1 秒以上押し続けることにより、13 文字目以降を表示できます。
表示できるのは最大で 24 文字です。

TEXT をもう一度 1 秒以上押す、または約 6 秒以上操作をしないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。
記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ランダム再生、リピート再生の解除

1 （RPT）または 2 （RDM）を押す、または FOLDER の“V”を押し続けます。

■エラー表示

表示	エラーの内容
“CD CHECK”	ディスクが汚れている、裏表逆などで読み取りができない
“ERROR3” “ERROR4”	プレーヤー内部に異常がある
“WAIT”	プレーヤーの温度異常を検出すると、表示部に次の表示が出て自動的にプレーヤーの機能が停止します。この場合、しばらくしてプレーヤーの温度が常温に復帰すると表示が消えて使用可能になります。
“NO SUPPORT”	ディスク内に MP3/WMA ファイルが収録されていないときに表示されます。

■再生可能な CD

次のマークのついたディスクが再生できます。
記録状態やディスクの特性、傷、汚れ、劣化により再生できないことがあります。

■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生を停止します。

■MP3/WMA ファイルについて

MP3（MPEG Audio LAYER3）は、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
MP3 を使用すれば、もとのファイルを約 1/10 のサイズに圧縮することができます。
WMA（Windows Media Audio）は、Microsoft Corporation の音声圧縮フォーマットです。MP3 よりも小さいサイズに圧縮することができます。
使用できるMP3/WMA ファイルの規格やそれを記憶したメディア、フォーマットには制限があります。

●再生可能な MP3 ファイルの規格について

・対応規格
MP3 (MPEG1　LAYER3、MPEG2　LSF　LAYER3)
・対応サンプリング周波数
MPEG1 LAYER3：32、44.1、48 (kHz)
MPEG2 LSF LAYER3：16、22.05、24 (kHz)
・対応ビットレート
MPEG1 LAYER3：64、80、96、112、128、160、192、224、256、320 (kbps)
MPEG2 LSF LAYER3：64、80、96、112、128、144、160 (kbps)
※ VBR に対応しています。
・対応チャンネルモード：ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

●再生可能な WMA ファイルの規格について

・対応規格
WMA Ver.7、8、9
・対応サンプリング周波数
32、44.1、48 (kHz)
・対応ビットレート
Ver.7、8：CBR48、64、80、96、128、160、192 (kbps)
Ver.9：CBR48、64、80、96、128、160、192、256、320 (kbps)
※ 2ch 再生のみ対応しています。

●使用できるメディアについて

MP3/WMA ファイルの再生に使用できるメディアは CD-R および CD-RW です。
CD-R、CD-RW の状態によっては再生できないことがあります。また、ディスクに傷や指紋をつけた場合、再生できないことや、音飛びすることがあります。

●使用できるディスクのフォーマットについて
使用できるメディアのフォーマットは下記の通りです。

・ディスクフォーマット：CD- ROM Mode1 および Mode2、CD- ROM XA、Mode2 Form1 および Form2
・ファイルフォーマット：ISO9660 レベル 1、レベル 2 (Romeo, Joliet)

上記フォーマット以外で書き込まれた MP3/WMA ファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されないことがあります。

規格ならびに制限事項は次の通りです。

・最大ディレクトリ階層：8 階層
・最大フォルダ名／ファイル名文字数：半角 32 文字（全角文字で記録された情報をこのオーディオで表示することはできません）
・最大フォルダ数：192（ルート含む）
・ディスク内最大ファイル数：255

●ファイル名について
MP3/WMA と認識し再生するファイルは、MP3/WMA の拡張子 “.mp3” または “.wma” がついたものだけです。

●マルチセッションについて
マルチセッションに対応しており、MP3/WMA ファイルを追加したディスクの再生が可能です。ただし、ファーストセッションのみ再生します。

●ID3 タグ /WMA タグについて
MP3 ファイルには、ID3 タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、曲のタイトル、アーティスト名などを記録することができます。
ID3 Ver.1.0、1.1、ID3 Ver.2.2、2.3 のタグに対応しています。（文字数は ID3 Ver.1.0、1.1 に準拠します。）
WMA ファイルには、WMA タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、ID3 タグと同様に曲のタイトル、アーティスト名を記録することができます。

●MP3/WMA の再生について
MP3/WMA ファイルが収録されているディスクを挿入すると、最初にディスク内のすべてのファイルをチェックします。ファイルのチェックが終わると、最初の MP3/WMA ファイルを再生します。
ディスク内のチェックを早く終わらせるために、MP3/WMA ファイル以外のファイルや必要のないフォルダなどを書き込まないことをおすすめします。
音楽データと MP3、または WMA 形式のデータが混在しているディスクは、音楽データのみ再生できます。

●拡張子について
MP3/WMA 以外のファイルに ".mp3" または ".wma" の拡張子がついていると、MP3/WMA ファイルと誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカーを破損することがあります。

●再生について
・安定した音質で再生するために、MP3 の場合、128kbps の固定ビットレート、44.1 kHz のサンプリング周波数を推奨します。
・CD-R、CD-RW はディスクの特性により再生できないことがあります。
・MP3/WMA は市場にフリーウェアなど多くのエンコーダソフトが存在し、エンコーダの状態やファイルフォーマットによって、音質が劣化したり再生開始時にノイズが発生したりするおそれがあります。また、再生できないことがあります。
・ディスクに MP3/WMA 以外のファイルを記録すると、ディスクの認識に時間がかかったり、再生できないことがあります。Microsoft、Windows、Windows Media は米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標および商標です。

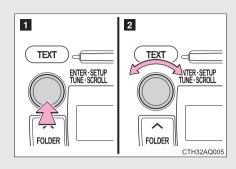
⚠ 注意

■使用できない CD、アダプター（→P. 240）

■CD プレーヤーの取り扱いについて（→P. 241）

■CD をプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると（→P. 241）

■レンズクリーナー（→P. 241）

快適に聞くために

1 ダイヤルを押してモードを表示させる

2 ダイヤルをまわして音質と音量バランスを変更する

最適な音質と音量バランスで聞くために設定を変更することができます。

設定を変更するには

■ 音質モードの切りかえ

を押すごとに次のように切りかわります。

FAD → BAS → TRE → BAL → ASL

■ 音質の調整

ENTER・SETUP TUNE・SCROLL をまわして、音質のレベルを調整します。

<table>
<tr><th>表示</th><th>調整モード</th><th>レベル</th><th>左にまわす</th><th>右にまわす</th></tr>
<tr><td>BAS</td><td>低音※[1]</td><td>-5 ～ 5</td><td rowspan="2">弱</td><td rowspan="2">強</td></tr>
<tr><td>TRE</td><td>高音※[1]</td><td>-5 ～ 5</td></tr>
<tr><td>FAD</td><td>前後音量
バランス</td><td>R7 ～ F7</td><td>後側大</td><td>前側大</td></tr>
<tr><td>BAL</td><td>左右音量
バランス</td><td>L7 ～ R7</td><td>左側大</td><td>右側大</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ASL</td><td rowspan="4">音量補正</td><td>OFF</td><td colspan="2" rowspan="4">右へまわす
OFF ⇄ LOW ⇄ MID ⇄ HIGH
左へまわす</td></tr>
<tr><td>LOW</td></tr>
<tr><td>MID</td></tr>
<tr><td>HIGH</td></tr>
</table>

※[1] 音質レベルは、ラジオまたは CD プレーヤーそれぞれで調整できます。

知識

■ASL ※[2]（音量補正）について

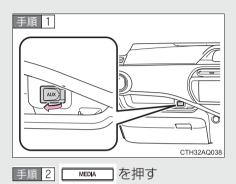
車速に応じて音量・周波数特性を自動的に制御し、いつも最適な音量・音質を実現するシステムです。

HIGH・MID・LOW の順に補正量が小さくなります。

※[2] ASL は Automatic Sound Levelizer の略です。

AUX（外部入力接続）端子の使い方★

ポータブルオーディオプレーヤーを車両のスピーカーから聞くことができます。

CTH32AQ038

フタを開けてポータブルオーディオの端子を接続する

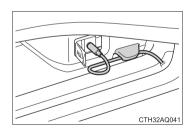
手順 2 MEDIA を押す

知識

■ポータブルオーディオの操作について

音量の調整をするときは、車両のオーディオで調整してください。
その他の操作は、ポータブルオーディオで行ってください。

■コードフックについて

CTH32AQ041

図のようにコードをかけることができます。

直径 5mm 前後のコードを固定してください。

★: 仕様により異なる装備やオプション装備

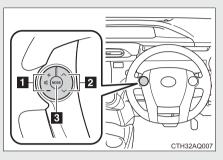
⚠ 注意

■コードフックについて

コードフックには、コード以外のものを固定しないでください。破損するおそれがあります。

ステアリングスイッチの使い方★

次の機能はステアリングスイッチで操作することができます。

メーカーオプションおよび、この車のステアリングスイッチに対応している販売店装着オプションのオーディオ・ナビゲーションシステムで使用することができます。装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の各取扱書をご覧ください。

1 音量を調節する

2 ラジオ：選局する

CD：曲／ファイル、フォルダを選ぶ

3 電源を入れる、モードを切りかえる

電源を入れる

MODE を押す

モードを切りかえる

MODE を押す（オーディオの電源がオンのとき）

押すごとに次のように切りかわります。

AM→FM→CD→AUX（AUX→AMに戻る）

CD が挿入されていないときは、CD を選択できません。

AUX 端子に機器が接続されていないときは、AUX を選択できません。

音量を調整する

を＋側、または−側に押す

スイッチを押し続けると、音量を連続して調整できます。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

消音するには

MODE を"ピッ"と音が鳴るまで押す

解除するには、もう一度"ピッ"と音が鳴るまで押します。

放送局を選択するには

手順 1 MODE を押して AM または FM を選択する

手順 2 を"∧"側、または"V"側に押す

スイッチを押すごとに、記憶させている周波数を選択します。

"ピッ"と音がするまで押し続けると、自動で受信可能な周波数を選択します。

CD の操作

手順 1 MODE を押して CD を選択する

手順 2 を"∧"側、または"V"側に押して、希望の曲を選択する

MP3/WMA の操作

■ ファイルを選択するには

手順 1 MODE を押して CD（MP3/WMA）を選択する

手順 2 を"∧"側、または"V"側に押して、希望の曲を選択する

■ フォルダを選択するには

手順 1 MODE を押して CD（MP3/WMA）を選択する

手順 2 を"∧"側、または"V"側に"ピッ"と音がするまで押して、希望のフォルダを選択する

知識

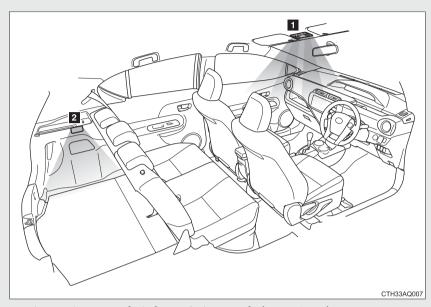
■タッチセンサー内蔵ステアリングスイッチについて（タッチトレーサーディスプレイ装着車）

→P. 177

⚠ 警告

■事故を防ぐために

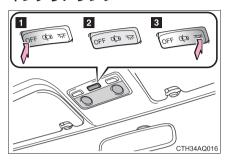
運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

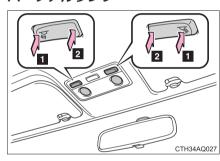
室内灯一覧

1 インテリアランプ／パーソナルランプ（→P. 257）

2 ラゲージルームランプ★

★：仕様により異なる装備やオプション装備

インテリアランプ／パーソナルランプ

インテリアランプ

1 ランプを消灯する
2 ドアの開閉作動に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる
3 ランプを点灯する

パーソナルランプ

1 ランプを点灯する
2 ランプを消灯する

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
インテリアランプスイッチがドアポジションのとき、ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジン スイッチの位置により、インテリアランプが自動的に点灯・消灯します。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車
インテリアランプスイッチがドアポジションのとき、電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・“パワー”スイッチのモードにより、インテリアランプが自動的に点灯・消灯します。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが“LOCK”の状態で、インテリアランプ、パーソナルランプまたはラゲージルームランプが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車
“パワー”スイッチが OFF の状態で、インテリアランプ、パーソナルランプまたはラゲージルームランプが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

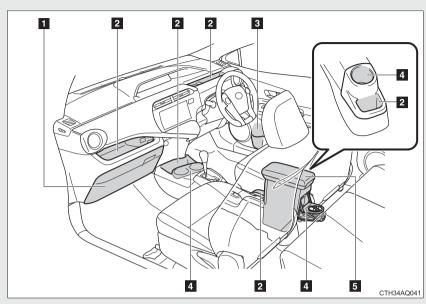
■販売店で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 426)

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、ランプを長時間使用しないでください。

収納装備一覧

1 グローブボックス
2 小物入れ★
3 ボトルホルダー
4 カップホルダー
5 コンソールボックス★

★：仕様により異なる装備やオプション装備

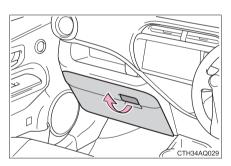
⚠ 警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

レバーを引き上げて開く

⚠ 警告

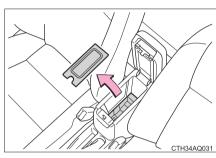
■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたグローブボックスが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

コンソールボックス★

CTH34AQ018

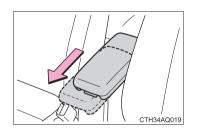
ノブを持ち上げてロックを解除し、フタを持ち上げて開く

CTH34AQ031

ボックス底のフタを取りはずす

小物を収納することができます。

知識

■コンソールボックスのフタをアームレストとして使うときは

CTH34AQ019

フタを前後にスライドすることができます。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告

■**走行中の警告**

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたコンソールボックスが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

小物入れ

メーターサイドボックス

CTH34AQ038

助手席オープントレイ

CTH34AQ014

フロントコンソールトレイ

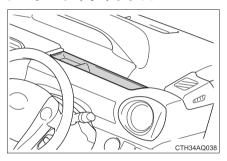
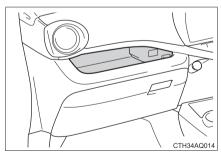
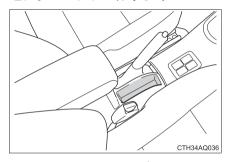
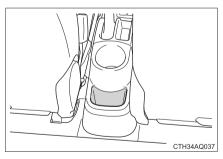
CTH34AQ039

センターコンソールトレイ

CTH34AQ036

リヤコンソールトレイ★

CTH34AQ037

★: 仕様により異なる装備やオプション装備

警告

■収納してはいけないもの

小物入れに転がりやすいものやふち面より高さがあるものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

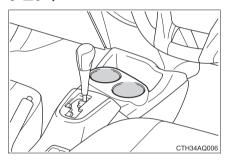
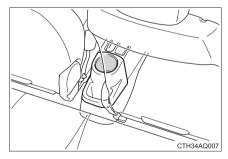
フロント

CTH34AQ006

リヤ（タイプ A）

CTH34AQ007

リヤ（タイプ B）

CTH34AQ008

フタを開く

⚠ 警告

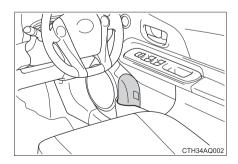
■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■リヤカップホルダーを使わないときは（タイプ B）

フタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたカップホルダーが体にあたったりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

ボトルホルダー

CTH34AQ002

知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

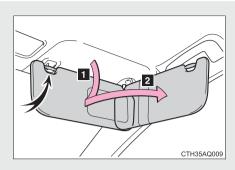
■収納してはいけないもの

ボトルホルダーにはペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

注意

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

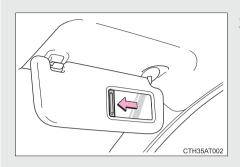
サンバイザー

1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

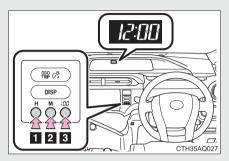
2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー★

カバーをスライドして開ける

★：仕様により異なる装備やオプション装備

時計

マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

ボタンを押して時刻を調整することができます。

1 “時”を調整する

2 “分”を調整する

3 “分”を 00 にする※

※（例） 1:00 ～ 1:29 → 1:00
1:30 ～ 1:59 → 2:00

マルチインフォメーションディスプレイ装着車

→P. 188

知識

■時刻が表示されるとき

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

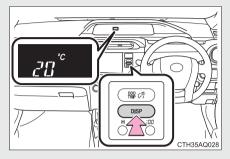
“パワー”スイッチが ON モードのとき

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

補機バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

外気温度表示

-40 ℃から 50 ℃のあいだで表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

DISP スイッチを押し外気温度表示を表示させます。
(→P. 167)

マルチインフォメーションディスプレイ装着車

DISP スイッチを押し、ドライブインフォメーション画面の外気温度表示を表示させます。
(→P. 181)

知識

■外気温度が表示されるとき

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■外気温度表示について

ステアリングスイッチでエアコンの温度調節もしくは外気導入・内気循環の切りかえを行うと、マルチインフォメーションディスプレイに外気温度が表示されます。(→P. 226)

■表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

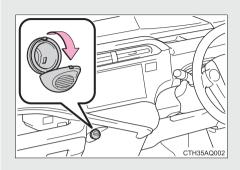
●停車しているときや、低速走行(約 20 km/h 以下)のとき

●外気温度が急激に変化したとき(車庫・トンネルの出入り口付近など)

■“– –”または“E”が表示されたときは

システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

アクセサリーソケット

12V 10A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

知識

■使用条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが“ACC”または“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車
“パワー”スイッチがアクセサリーまたは ON モードのとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

12V 10A をこえないようにしてください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

シートヒーター★

1 ボタンを押して助手席を暖める

2 ボタンを押して運転席を暖める

インジケーターが点灯します。もう一度ボタンを押すとOFFになります。

知識

■作動条件

“パワー”スイッチがONモードのとき

■使用しないときは

スイッチを切ってください。インジケーターが消灯します。

警告

■やけどについて

●低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特に注意してください。

- ・乳幼児・お子さま・年寄り・病人・体の不自由な方
- ・皮膚の弱い方
- ・疲労の激しい方
- ・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

●シートに毛布・クッションなどを使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり、異常過熱の原因になります。

●シートヒーターを必要以上に使用しないでください。
低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常過熱の原因になるおそれがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

⚠ 注意

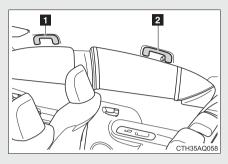
■シートヒーターの故障を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止しているときは、スイッチを切り、インジケーターが消灯したことを確認してください。

アシストグリップ★

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

1 フロント

2 リア

⚠ 警告

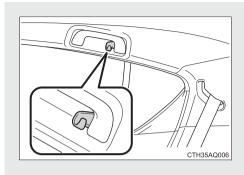
■アシストグリップについて

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

⚠ 注意

■破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

コートフック★

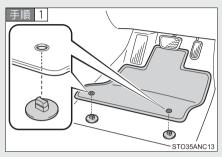
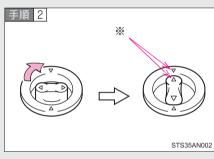
⚠ 警告

■コートフックへかけてはいけないもの（SRS カーテンシールドエアバッグ装着車）

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

フロアマット

お車（年式）専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む

固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※△マークを必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

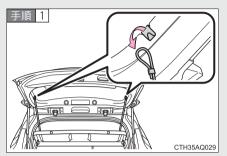
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

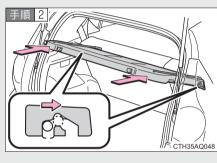
■運転席にフロアマットを敷くときは

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

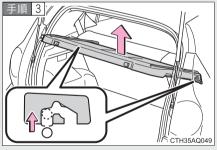
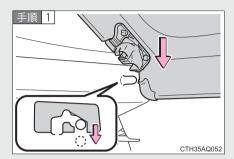
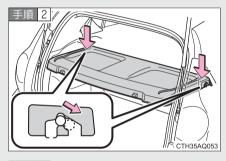
■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

パッケージトレイ★

■ パッケージトレイの取りはずし

止めヒモを左右のフックからはずす

パッケージトレイを奥へ押してピンのかん合をはずす

パッケージトレイを取りはずす

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ パッケージトレイの取り付け

手順 1 パッケージトレイを取り付ける

手順 2 カチッと音がするまで押す

手順 3 止めヒモを左右のフックに付ける

お手入れのしかた 4

外装の手入れ

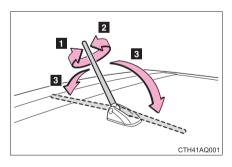
お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水を拭き取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください。）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

洗車時には、アンテナを脱着、または格納することができます。

1 取りはずす

2 取り付ける

3 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。

知識

■自動洗車機を使うときは

●ドアミラーを格納し、アンテナを取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。

●ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

●洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり破損したりするおそれがあります。

■高圧洗車機を使うときは

●車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。

●洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■洗車などで車に水をかけたとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（電子キーの盗難に注意してください）

■アルミホイール★

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■フロントドアガラスの撥水コーティング★について

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■アンテナの損傷を防ぐために

次のようなときはアンテナを格納してください。

●車庫の天井などにアンテナがあたるとき

●カーカバーをかけるとき

■アンテナの取りはずしについて

●通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。

●自動洗車機などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で拭き取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れを拭き取る

  ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤を拭き取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分を拭き取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジややわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤を拭き取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、拭き取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラス★について

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告

■車両への水の浸入

●床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください（→P. 32）。駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。（→P. 101）電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次の警告をお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する。

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパー UV カットガラスを清掃するときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

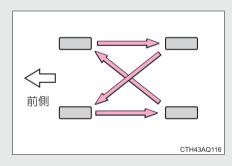
■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

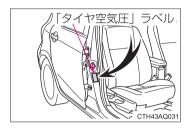
  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

図で示す順にタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

標準タイヤ

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm²)	
	前輪	後輪
165/70R14 81S	250 (2.5)	240 (2.4)
175/65R15 84H	230 (2.3)	230 (2.3)
195/50R16 84V	220 (2.2)	200 (2.0)
195/45R17 81W	230 (2.3)	230 (2.3)

スペアタイヤ

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm²)
T125/70D15 95M	420 (4.2)
T125/70D16 96M	

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■低偏平タイヤについて（195/50R16 84V または 195/45R17 81W 装着車）

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤかタイヤチェーンを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

※ 195/45R17 81W 装着車には、タイヤチェーンを装着できません。冬用タイヤを使用してください。

■低偏平タイヤの空気圧点検（195/50R16 84V または 195/45R17 81W 装着車）

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
守らないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

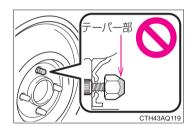
- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

警告

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●破裂などの修理できない損傷を与える
- ●車両が横すべりする
- ●車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- ●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
  テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
  ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
  またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。
  オイルやグリースがねじ部についている場合は拭き取ってください。

⚠ 注意

■低偏平タイヤについて（195/50R16 84V または 195/45R17 81W 装着車）

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことに注意してください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用する
  空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- 段差や凹凸のある路面、路上に空いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
  タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

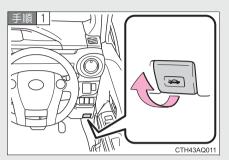
■走行中に空気もれが起こったら

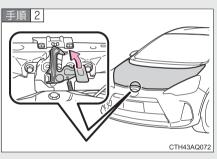
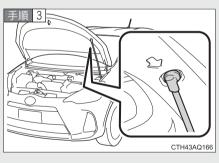
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

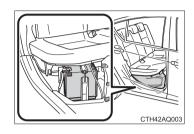
ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮きあがります。

レバーを引きあげて、ボンネットを開ける

ボンネットステーをステー穴に挿し込む

知識

■補機バッテリーについて

CTH42AQ003

●この車両の補機バッテリーはリヤシート下（右側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。（補機バッテリーはバッテリー液の補充が必要ないタイプのため、バッテリー液量などの点検は不要です）

●補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→P. 401）

■補機バッテリー端子をはずすときは

●補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

●必ずー端子を先にはずしてください。

⚠ 警告

■**走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**修理・車検・整備点検をする場合は**

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**エンジンルームを点検したあとは**

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**ボンネットを閉めるときは**

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■**補機バッテリー端子を脱着するときは**

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**補機バッテリーの交換について**

交換する際はアクア専用品を使用してください。専用品以外を使用すると、ガス（水素）が室内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。
補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

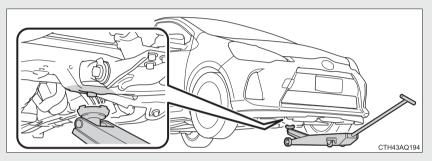
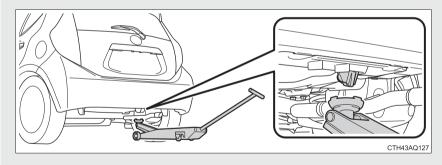
注意

■**ボンネットへの損傷を防ぐために**

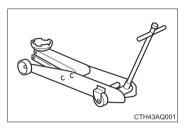
ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ちあげるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

■ フロント側

■ リヤ側

警告

■**車両を持ちあげるときには**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ちあげる

●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する

●車に搭載されているジャッキを使用しない
車両が落下するおそれがあります。

●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない

●ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。

●車両がジャッキアップされた状態でハイブリッドシステムを始動しない

●平らで硬い地面に停車させ、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにする

●ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しくセットする
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ちあげると、車両が損傷します。また車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

●車内に乗員がいるときは車両を持ちあげない

●車両を持ちあげるときは、ガレージジャッキの上または下にものを置かない

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

■ 電球の用意

切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→P. 424）

■ フロントのバルブ位置

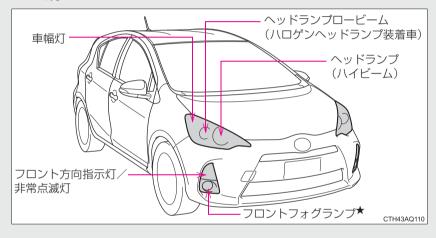
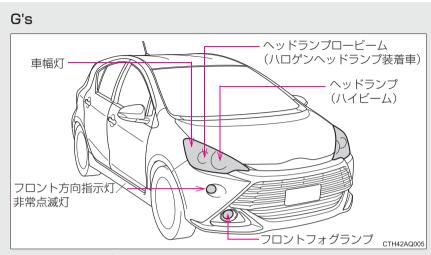
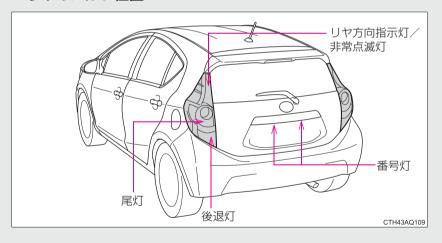
G's を除く

★：仕様により異なる装備やオプション装備

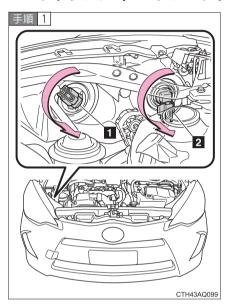
G's

ヘッドランプロービーム
（ハロゲンヘッドランプ装着車）
車幅灯
ヘッドランプ
（ハイビーム）
フロント方向指示灯／
非常点滅灯
フロントフォグランプ
CTH42AQ005

■ リヤのバルブ位置

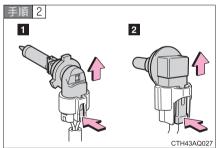
リヤ方向指示灯／
非常点滅灯
番号灯
尾灯
後退灯
CTH43AQ109

電球交換のしかた

■ ヘッドランプ（ハロゲンヘッドランプ装着車）

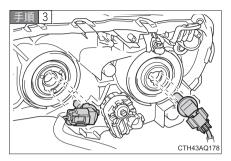
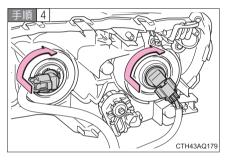
手順 1

ソケットを取りはずす

1 ハイビーム（内側）

2 ロービーム（外側）

手順 2

電球を取りはずす

1 ハイビーム

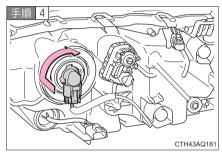
2 ロービーム

電球を交換し、ソケットを取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3か所）を合わせて挿し込みます。

ソケットをまわして固定する

ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

■ ヘッドランプハイビーム (LED ヘッドランプ装着車)

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

CTH43AQ180

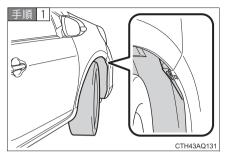
電球を交換し、ソケットを取り付ける

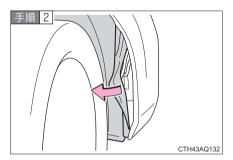
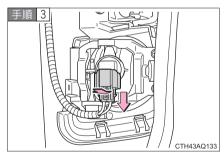
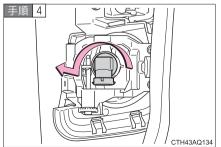
取り付け部と電球のツメ（3か所）を合わせて挿し込みます。

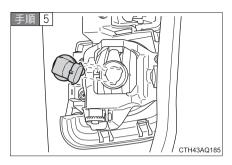
CTH43AQ181

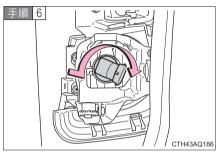
ソケットをまわして固定する

ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

■ フロントフォグランプ★

交換するランプの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる

手が十分に入る程度にハンドルをまわしてください。

コネクターが見える位置までフェンダーライナーをめくる

コネクターを取りはずす

電球を取りはずす

★：仕様により異なる装備やオプション装備

新しい電球を取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3か所）を合わせて挿し込みます。

電球をまわして固定し、コネクターを取り付ける

電球を軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんフロントフォグランプを点灯させ、電球の取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

手順 7 手順 2 と逆の手順でフェンダーライナーをもとに戻す

■ 車幅灯

コネクターを取りはずす

手順 2

ソケットを取りはずす

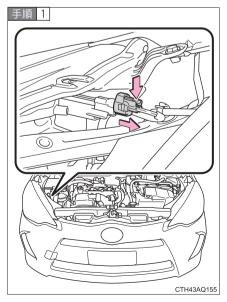
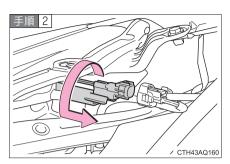
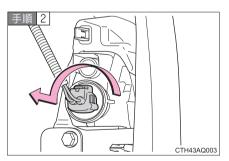
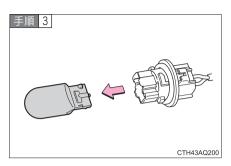
手順 3

電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

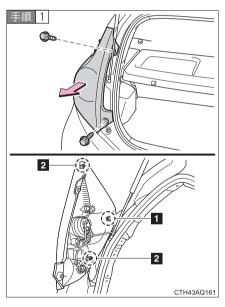
■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

手順 1 フェンダーライナーをめくる（→P. 307）

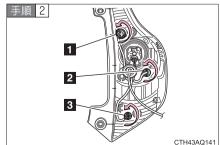
手順 2

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

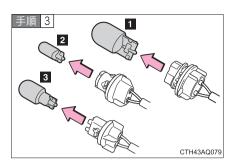
手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯・尾灯・後退灯

バックドアを開け、ボルト（2 本）をはずし、ランプ本体をまっすぐ後方に引き、内部にあるかん合をはずす

1 車体側のクリップを受ける箇所

2 ピン

ソケットを取りはずす

1 リヤ方向指示灯／非常点滅灯

2 尾灯

3 後退灯

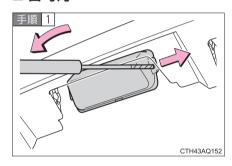
電球を取りはずす

1 リヤ方向指示灯／非常点滅灯

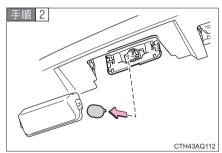
2 尾灯

3 後退灯

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号灯

カバーを取りはずす

小さいドライバーなどをカバーの穴にさしこみ図のようにこじると、カバーの片側がういてカバーがはずれます。

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。

電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ その他の電球

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ● ヘッドランプロービーム（LED ヘッドランプ装着車）
- ● サイド方向指示灯／非常点滅灯
- ● LED イルミネーションビーム★
- ● 制動灯
- ● ハイマウントストップランプ

知識

■LED ランプについて

ヘッドランプロービーム（LED ヘッドランプ装着車）・制動灯・ハイマウントストップランプ・LED イルミネーションビームは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- ●レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ●ランプ内に水がたまっている

★：仕様により異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■電球を交換するときは

●必ずハイブリッドシステムを停止し、ランプを消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1 **スマートエントリー&スタートシステム非装着車**

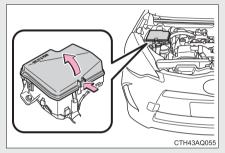
エンジン スイッチを“LOCK”にする

スマートエントリー&スタートシステム装着車

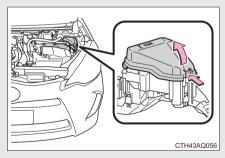
“パワー”スイッチを OFF にする

手順 2 ヒューズボックスを開ける

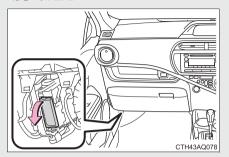
エンジンルーム（ヒューズボックス A）

CTH43AQ055

ツメを押しながら、カバーを持ちあげる

エンジンルーム（ヒューズボックス B）

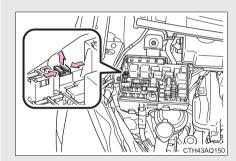
CTH43AQ056

ツメを押しながら、カバーを持ちあげる

助手席足元

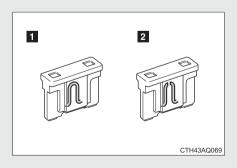
CTH43AQ078

カバーを取りはずす

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 316)で確認する

手順 4 ヒューズを引き抜く

CTH43AQ150

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

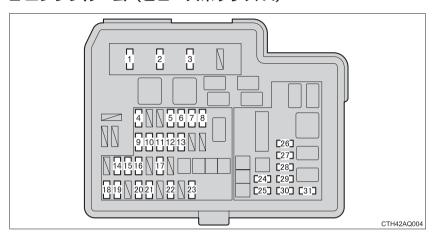
手順 5 ヒューズが切れていないか点検する

CTH43AQ069

1 正常

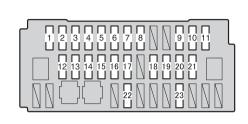
2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム（ヒューズボックス A）

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	EFI-MAIN	20 A	EFI NO.2、EFI システム
2	HORN	10 A	ホーン
3	IG2	30 A	IG2 NO.2、METER、IGN
4	EFI NO.2	10 A	EFI システム
5	H-LP RH-LO	10 A	ヘッドランプ右側（ロービーム）
6	H-LP LH-LO	10 A	ヘッドランプ左側（ロービーム）
7	H-LP RH-HI	10 A	ヘッドランプ右側（ハイビーム）
8	H-LP LH-HI	10 A	ヘッドランプ左側（ハイビーム）、メーター
9	IG2 NO.2	10 A	ステアリングスイッチ、EFI システム、スタートシステム、スマートエントリー＆スタートシステム、エアバッグシステム
10	DOME	15 A	オーディオシステム、VDR、ボデーECU、室内灯
11	ECU-B NO.1	7.5 A	ボデー ECU、スマートエントリー＆スタートシステム
12	METER	7.5 A	メーター
13	IGN	15 A	EFI システム
14	HAZ	10 A	方向指示／非常点滅灯

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
15	ETCS	10 A	EFI システム
16	ABS NO.1	20 A	ブレーキシステム
17	ENG W/PMP	30 A	EFI システム
18	ECU-B NO.2	7.5 A	エアコンシステム、メーター、スタートシステム、スマートエントリー＆スタートシステム、パワードアロックシステム、電動格納式ドアミラー
19	AM2	7.5 A	スタートシステム
20	STRG LOCK	20 A	スタートシステム、スマートエントリー＆スタートシステム
21	ABS NO.2	10 A	ブレーキシステム
22	IGCT-MAIN	30 A	IGCT NO.2、IGCT NO.3、IGCT NO.4、PCU、BATT FAN
23	D/C CUT	30 A	DOME、ECU-B NO.1
24	DEF	30 A	リヤウインドウデフォッガー
25	DEICER	20 A	フロントワイパーデアイサー
26	BATT FAN	10 A	駆動用電池冷却ファン
27	IGCT NO.2	10 A	ハイブリッドシステム
28	IGCT NO.4	10 A	ハイブリッドシステム
29	PCU	10 A	ハイブリッドシステム
30	IGCT NO.3	10 A	ハイブリッドシステム
31	MIR HTR	10 A	—

■ 助手席足元

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	TAIL	10 A	尾灯、車幅灯、番号灯、ヘッドランプレベリングシステム、メーター
2	PANEL	5 A	インストルメントパネルランプ
3	DOOR R/R	20 A	後席右側パワーウインドウ
4	DOOR P	20 A	前席左側パワーウインドウ
5	ECU-IG NO.1	5 A	リヤウインドウデフォッガー、ヘッドランプレベリングシステム、ボデー ECU、VSC システム、LED イルミネーションビーム
6	ECU-IG NO.2	5 A	電動パワーステアリング
7	HTR-IG	7.5 A	エアコンシステム、「ナノイー」、ワイパーデアイサー、PTC ヒーター
8	GAUGE	10 A	後退灯、オーディオシステム、シフトロックコントロールシステム、ヘッドランプクリーナー、VDR、車両接近通報装置、電動格納式ドアミラー
9	WASHER	15 A	ワイパー&ウォッシャー
10	WIPER	25 A	ワイパー&ウォッシャー
11	WIPER RR	15 A	ワイパー&ウォッシャー
12	DOOR R/L	20 A	後席左側パワーウインドウ
13	DOOR D	20 A	前席右側パワーウインドウ
14	CIG	15 A	アクセサリーソケット
15	ACC	5 A	ボデー ECU、オーディオシステム、電動格納式ドアミラー、シフトロックコントロールシステム
16	D/L	25 A	パワードアロックシステム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
17	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
18	FOG RR	7.5 A	—
19	STOP	7.5 A	スタートシステム、シフトロックコントロールシステム、車両接近通報装置、ストップランプ、ハイマウントストップランプ
20	AM1	7.5 A	スタートシステム
21	FOG FR	15 A	フロントフォグランプ、メーター
22	S/ROOF	25 A	—
23	S/HTR	15 A	シートヒーター

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P. 301）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- ●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- ●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて

高電圧部位・高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換を行わないでください。
取り扱いを誤ると感電し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

キーの電池交換

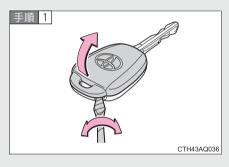
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池
  ・CR2016（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）
  ・CR1632（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

■ 電池交換のしかた（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

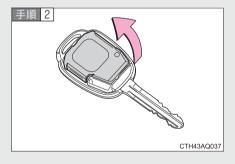
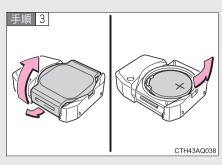
手順 1

CTH43AQ036

カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

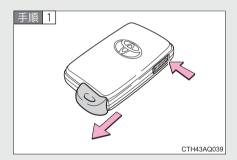
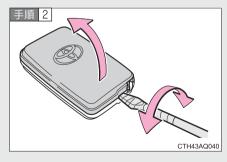
ボタン側を下向きにしてカバーをはずしてください。上向きにするとボタンがはずれるおそれがあります。

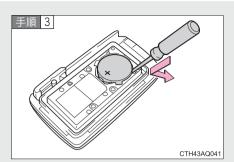
手順 2

CTH43AQ037

モジュールを取り出す

モジュールカバーをはずし消耗した電池を取り出す

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 電池交換のしかた（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

メカニカルキーを抜く

カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

小さいマイナスドライバーを使い消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池 CR2016（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、CR1632（スマートエントリー&スタートシステム装着車）の入手

リチウム電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー&スタートシステム（装着車のみ）やワイヤレスリモコンが作動しない

●作動距離が短くなる

警告

■取りはずした電池と部品について

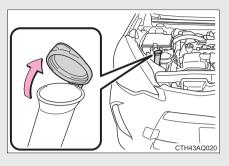
お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ウォッシャー液の補給

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給する

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

ハイブリッドシステムを停止したあと、十分冷えてからウォッシャー液を補給してください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、熱くなったエンジンルーム内にかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
塗装にしみが付くおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

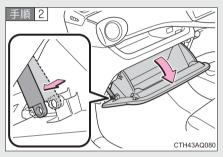
■ 交換のしかた

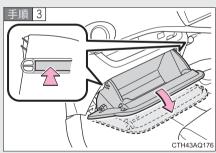
手順 1 **スマートエントリー＆スタートシステム非装着車**

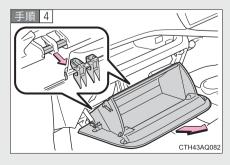
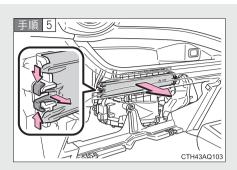
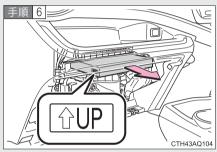
エンジン スイッチを“LOCK”にする

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“パワー”スイッチを OFF にする

手順 2

グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

手順 3

グローブボックス側面を片側ずつ内側に押して上部のツメをはずす

手順 4

グローブボックス下部のツメをはずして取りはずす

フィルターカバーを取りはずす

フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

手順 7 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

交換：20,000 km [10,000 km ※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

⚠ 注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

トラブルが起きたら

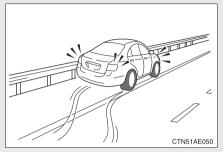
5

5-1. まずはじめに

5-2. 緊急時の対処法

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

CTN51AE050

非常点滅灯（→P. 331）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

ITIRMO001

高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の50 m以上後方に発炎筒（→P. 332）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

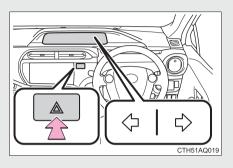
知識

■停止表示板・停止表示灯について

CTH51ZA001

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

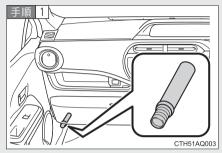
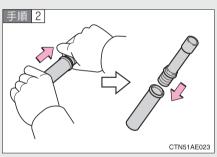
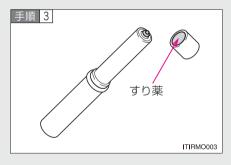
すべての方向指示灯が点滅します。もう一度押すと消灯します。

知識

■非常点滅灯について

ハイブリットシステム停止中 (READY インジケーターが点灯していないとき) に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

助手席足元の発炎筒を取り出す

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。

知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠ 警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

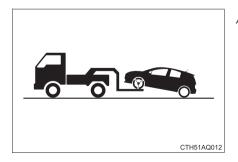
やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

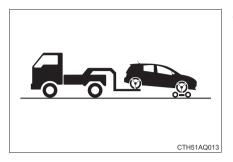
次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

- ハイブリッドシステム異常警告灯が点灯（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）またはハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）され、車が動かない
- 異常な音がする

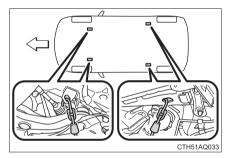
レッカー車でけん引するとき

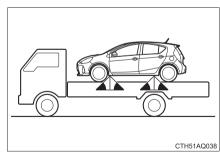
前向きにけん引するときは

パーキングブレーキを解除する

うしろ向きにけん引するときは

CTH51AQ013

台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

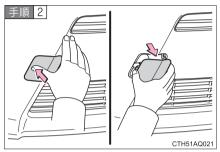
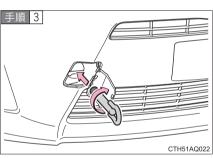
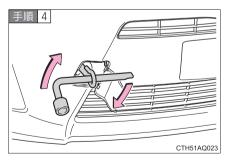
CTH51AQ033

車両運搬車で輸送されているときは、図の場所にフックを取り付ける

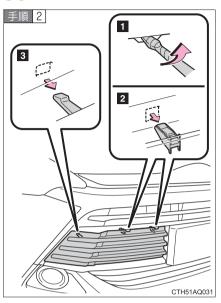
CTH51AQ038

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する

けん引されるとき

■ けん引フックの取り付け方

手順 1 けん引フックを取り出す (→P. 367, 378)

G's を除く

フタを押してはずす

けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

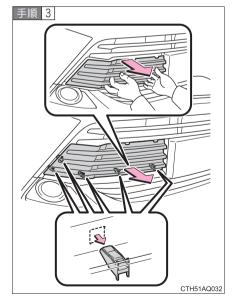
G's

カバー上部のツメをはずす

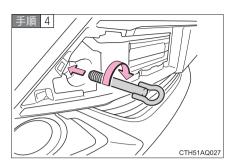
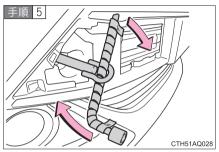
1 切り欠き

2 ツメ

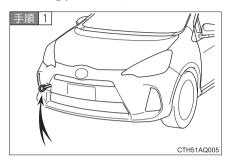
3 ツメ

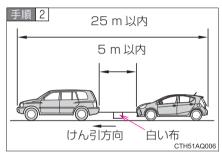
マイナスドライバーを切り欠きの穴にさしこむとツメがはずれます。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーに保護テープなどを巻いてください。

すべてのツメをはずす

図のようにまっすぐ引くとすべてのツメがはずれ、カバーがはずれます。

けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

傷が付くのを防ぐために、ホイールナットレンチに布などを巻いて保護してください。

■ けん引されるときは

車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m 平方(30 cm × 30 cm)以上

手順 3 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、エンジン スイッチを“ON”にしてください。

スマートエントリー&スタートシステム装着車：運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、“パワー”スイッチを ON モードにしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P. 395

知識

■けん引フックの使用目的

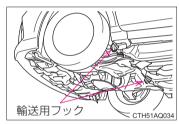
けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

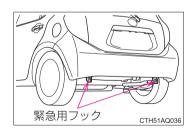
■けん引されるときに

ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

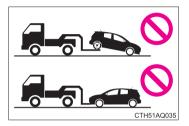
ラゲージルームに搭載されています。(→P. 367, 378)

■輸送用フックについて

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**けん引されるとき**

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ちあげた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。

■**けん引中の運転について**

●ロープによるけん引を行うときは、けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●エンジン スイッチを“LOCK”（スマートエントリー＆ スタートシステム非装着車）または“パワー”スイッチを OFF（スマートエントリー＆ スタートシステム装着車）にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■**けん引フックを車両に取り付けるとき**

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■**レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

■**車両運搬車に車を固縛するとき**

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■**駆動系部品の損傷を防ぐために**

●ロープでけん引されるときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない

・速度は 30 km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる

・前進方向でけん引する

・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■**長い下り坂でけん引するときは**

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。

レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■**輸送用フックについて**

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

注意

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- ●やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- ●緊急用フックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!) （赤色）	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）**※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。 解除後、消灯すれば正常です。

※ **ブレーキ警告ブザー：**
ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。

パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5 km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。
警告ブザーが鳴ったときは、パーキングブレーキを解除してください。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電系統の異常
	油圧警告灯★ エンジンオイルの圧力異常
	高水温警告灯★ エンジン冷却水高温異常 水温の上昇にともない、点滅から点灯へかわります。(→P. 408)
	ハイブリッドシステム異常警告灯★（警告ブザー）※ ハイブリッドシステムの異常

※ 警告灯の点灯に合わせて警告ブザーが鳴ります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置するとシステムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・ハイブリッドシステムの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
ABS	**ABS & ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
（点灯）	**スリップ表示灯** ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常
（黄色）	**電子制御ブレーキ警告灯** ・回生ブレーキシステムの異常 ・電子制御ブレーキシステムの異常
	LED ヘッドランプ警告灯★ LED ヘッドランプの異常 異常時は LED ヘッドランプは点灯しませんが、故障の状況によっては、点灯できる場合があります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容
	LED ヘッドランプオートレベリング警告灯★ 自動光軸調整システムの異常
（15 秒間黄色点滅）	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯★** **（警告ブザー）** ・スマートエントリー&スタートシステムの異常 ・ステアリングロックシステムの異常

★：仕様により異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

<table>
<tr><th>警告灯</th><th>警告灯名・警告内容</th><th>対処方法</th></tr>
<tr><td rowspan="4"></td><td colspan="2">Pポジション要求表示灯★（警告ブザー）</td></tr>
<tr><td>長時間シフトレバーがNになっているため、駆動用電池の残量が低下した</td><td rowspan="3">シフトレバーをPにする</td></tr>
<tr><td>シフトレバーがN・D・Bで運転席ドアを開けた</td></tr>
<tr><td>シフトレバーがP以外の状態でハイブリッドシステムを始動しようとした</td></tr>
<tr><td></td><td>ハイブリッドシステム過熱警告灯★（警告ブザー）
ハイブリッドシステムがオーバーヒートした
負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときに警告灯が点灯する場合があります。</td><td>車両を停車して点検する
(→P. 408)</td></tr>
<tr><td></td><td>駆動用電池残量低下警告灯★（警告ブザー）
長時間シフトレバーがNになっているため、駆動用電池の残量が低下した</td><td>・シフトレバーがNの状態では充電できないため、長時間停車するときはシフトレバーをPにする
・READYインジケーターが消灯しているときは、シフトレバーをPにしてハイブリッドシステムを再始動する</td></tr>
</table>

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
（点滅または点灯）	**充電警告灯** 補機バッテリーが充電不足	**数秒後※1に警告灯が消灯したときは** 約１５分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。 **警告灯が消灯しないときは** 「補機バッテリーがあがったときは」（→P. 401）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。
	半ドア警告灯★ **(警告ブザー)** ※2 いずれかのドアが確実に閉まっていない	全ドアを閉める
F E（点滅）	**燃料残量警告灯** 燃料の残量減 約５Ｌ以下になるとブザーが鳴り、燃料計の残量表示（いちばん下）が点滅します。	燃料を補給する
	シートベルト非着用警告灯 **(警告ブザー)** ※3 運転席・助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。
	マスターウォーニング★ システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。	→P. 354

★：仕様により異なる装備やオプション装備

※1 約6秒間表示されます。

※2 **半ドア走行時警告ブザー：**
各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h をこえたときにブザーが鳴ります。

※3 **シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると、警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のまま 30 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、警告ブザーが鳴ることがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

注意

■充電警告灯がひんぱんに点滅するときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

ただちに処置してください(スマートエントリー&スタートシステム装着車)

それぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

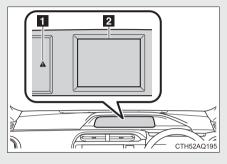
警告ブザー		警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
車内	車外			
連続音	連続音	(黄色点滅)	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯★** シフトレバーがP以外の状態で、“パワー”スイッチをOFFにせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	・シフトレバーをPにする ・電子キーを車内にもどす
1回	3回	(黄色点滅)	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯★** シフトレバーがPの状態で、“パワー”スイッチをOFFにせずに、電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	“パワー”スイッチをOFFにするまたは電子キーを車内にもどす
			スマートエントリー&スタートシステム表示灯★ “パワー”スイッチがOFF以外の状態で、同乗者が電子キーを持ち出したまま運転席以外のドアが開閉された	電子キーを車内にもどす
1回	連続音(5秒間)	(黄色点滅)	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯★** “パワー”スイッチをOFFにせずに、電子キーを持ち出してスマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	“パワー”スイッチをOFFにしたあと、再度施錠する

★:仕様により異なる装備やオプション装備

警告ブザー		警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
車内	車外			
1回	—	（15 秒間黄色点滅）	**スマートエントリー＆スタートシステム表示灯★** 電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でハイブリッドシステムを始動しようとした	電子キーを携帯してハイブリッドシステムを始動する
9回	—	（黄色点滅）	**スマートエントリー＆スタートシステム表示灯★** 正規の電子キーが車室内に無い状態で走行をはじめた	車室内に電子キーがあるか確認する
1回	—	（15 秒間黄色点滅）	**スマートエントリー＆スタートシステム表示灯★** 電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する（→P. 321）
1回	—	（15 秒間緑色に速点滅）	**スマートエントリー＆スタートシステム表示灯★** “パワー”スイッチを押してから約 3 秒以内にステアリングロックが解除できなかった	ブレーキペダルを踏んでハンドルを左右にまわしながら“パワー”スイッチを押す
1回	—	（30 秒間黄色点滅）	**スマートエントリー＆スタートシステム表示灯★** ・メカニカルキーで解錠して“パワー”スイッチを押したとき、車室内で電子キーを検知できなかった ・“パワー”スイッチを押したとき、車室内で電子キーを検知できないことが 2 回連続で続いた	ブレーキペダルを踏みながら電子キーで、“パワー”スイッチにふれる

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告メッセージが表示されたときは（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。

1 マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

警告内容や対処方法が表示されます。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
ハイブリッドシステムチェック 安全な場所に停車して下さい	**ハイブリッドシステムの異常** 警告メッセージの表示に合わせて警告ブザーが鳴ります。
	エンジン冷却水高温異常

警告メッセージ	警告内容
エンジン油圧不足	**エンジンオイル圧力の異常** エンジンオイルの圧力が異常に低いと、警告ブザーと共に表示されます。

ただちに点検を受けてください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
スマートエントリー & スタートシステムチェック (点滅)	· **スマートエントリー & スタートシステム★の異常** · **ステアリングロックシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。
ヘッドライト レベリング システムチェック	**LED ヘッドランプオートレベリングシステム★の異常** 警告ブザーが鳴ります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
ヘッドランプシステムチェック (点滅)	**LED ヘッドランプ★の異常** 警告ブザーが鳴ります。 異常時は LED ヘッドランプは点灯しませんが、故障の状況によっては、点灯できる場合があります。

ただちに処置してください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	各ドアが確実に閉まっていない 開いてるドアが表示されます。 各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h をこえたときには が点滅しブザーが鳴ります。	各ドアを閉める

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	バックドアが確実に閉まっていない バックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h をこえたときには が点滅しブザーが鳴ります。	バックドアを閉める
パーキングブレーキを解除して下さい (赤色)	**パーキングブレーキが解除されていない** パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5 km/h をこえたときには が点滅しブザーが鳴ります。	パーキングブレーキを解除する
ハイブリッドシステム過熱 出力制限中です	**ハイブリッドシステムの過熱** 警告ブザーが鳴ります。 負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。	車両を停車して点検する (→P. 408)

5

警告メッセージ	警告内容	対処方法
駆動用電池充電量低下 N レンジ以外で充電します (点滅)	**駆動用電池の残量が低下** 警告ブザーが鳴ります。	シフトレバーが N の状態では充電できないため、長時間停車するときはシフトレバーを P にする
駆動用電池保護モード P レンジで再始動して下さい (点滅)	**長時間シフトレバーが N になっているため、駆動用電池の残量が低下** 警告ブザーが鳴ります。	車両を動かす場合は、シフトレバーを P にしてハイブリッドシステムを再始動する
駐車時は P レンジに 入れて下さい (点滅)	**シフトレバーが N・D・B で、運転席ドアを開けた** 警告ブザーが鳴ります。	シフトレバーを P にする

警告メッセージ	警告内容	対処方法
Nレンジです (点滅)	**シフトレバーがNのとき、アクセルペダルを踏んだ** 警告ブザーが鳴ります。	アクセルペダルから足を離し、シフトレバーをD・BまたはRにする
ライトが点灯しています (点滅)	**エンジン スイッチが"ACC"または"LOCK"の状態(スマートエントリー&スタートシステム非装着車)、"パワー"スイッチがアクセサリーモードまたはOFFの状態(スマートエントリー&スタートシステム装着車)でランプを点灯したまま運転席ドアを開けた** 警告ブザーが鳴ります。	ランプを消灯する
EVモードに 現在切替できません	**EVドライブモードに切りかえできない状況にいる※** 警告ブザーが鳴ります。 EVドライブモードを使用できない理由(暖機中/電池充電不足/EV速度域超過/アクセル踏み過ぎ)の表示がでる場合があります。	EVドライブモードが使用できる状況になってから使用する
EVモードが解除されました EV MODE (3回点滅)	**EVドライブモードが自動解除された※** 警告ブザーが鳴ります。 EVドライブモードを使用できない理由(電池充電不足/EV速度域超過/アクセル踏み過ぎ)の表示がでる場合があります。	しばらく走行する

※ EVドライブモードの作動条件については、P. 156を参照してください。

ただちに処置してください。

ハイブリッドシステム始動操作を行ったとき、次の警告が表示された場合は、警告メッセージの表示状態に従ってそれぞれ処置してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
補機バッテリー （始動用）充電不足 取扱書確認下さい	**補機バッテリーが充電不足**	**数秒後※に表示が消えたときは** 約１５分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。
		表示が消えないときは 「補機バッテリーがあがったときは」（→P. 401）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※約６秒間表示されます。

⚠ 注意

■「補機バッテリー（始動用）充電不足」がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

ただちに処置してください。(スマートエントリー&スタートシステム装着車)

それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1回	—	キーが見つかりません (点滅)	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でハイブリッドシステムを始動しようとした	電子キーを携帯してハイブリッドシステムを始動する
1回	3回	キーが見つかりません (点滅)	シフトレバーがPの状態で、"パワー"スイッチをOFFにせずに、電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	"パワー"スイッチをOFFにするまたは電子キーを車内にもどす
			"パワー"スイッチがOFF以外の状態で、同乗者が電子キーを持ち出したまま運転席以外のドアが開閉された	電子キーを車内にもどす

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	連続音（5 秒間）	キーが見つかりません 電源をOFFして下さい （交互に表示） （点滅）	“パワー” スイッチを OFF にせずに、電子キーを持ち出してスマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	“パワー” スイッチを OFF にしたあと、再度施錠する
9 回	—	キーが見つかりません （点滅）	正規の電子キーが車室内に無い状態で走行をはじめた	車室内に電子キーがあるか確認する
連続音	—	P レンジに入れて下さい （点滅）	シフトレバーが P 以外の状態で、“パワー” スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた	シフトレバーを P にする

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
連続音	連続音	Pレンジに入れて下さい キーが見つかりません (交互に表示) (点滅)	シフトレバーがP以外の状態で“パワー”スイッチをOFFにせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	・シフトレバーをPにする ・電子キーを車内にもどす
1回	連続音	車室内にキーがあります (点滅)	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
			車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした	

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1回	—	ブレーキを踏みながら キーでパワースイッチに 触れて下さい （点滅）	・メカニカルキーで解錠して“パワー”スイッチを押したとき、車室内で電子キーを検知できなかった ・“パワー”スイッチを押したとき、車室内で電子キーを検知できないことが2回連続で続いた	ブレーキペダルを踏みながら電子キーで、“パワー”スイッチにふれる
1回	—	始動時は P レンジに 入れて下さい （点滅）	シフトレバーがP以外の状態でハイブリッドシステムを始動しようとした	シフトレバーをPに入れてからハイブリッドシステムを始動させる
—	—	バッテリー保護の為 自動電源OFFしました	自動電源OFF機能が作動した	次回ハイブリッドシステム始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転数を保持し補機バッテリーを充電する
1回	—	キーバッテリー残りわずか	電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する（→P. 321）

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	—	始動時はブレーキを踏みながらパワースイッチを押して下さい (点滅)	“パワー”スイッチが OFF の状態で運転席のドアを開閉してからハイブリッドシステムを始動せずに“パワー”スイッチをアクセサリーモードに 2 回した	ブレーキペダルを踏んで“パワー”スイッチを押す
			電子キーが正常に働かないときのハイブリッドシステムの始動の方法で(→P. 398)“パワー”スイッチに電子キーをふれた	ブザーが鳴ってから 10 秒以内に“パワー”スイッチを押す
1 回	—	ステアリングロック未解除 (点滅)	“パワー”スイッチを押してから約 3 秒以内にステアリングロックが解除できなかった	ブレーキペダルを踏んでハンドルを左右にまわしながら“パワー”スイッチを押す
1 回	—	P レンジに入れて下さい (点滅)	シフトレバーが P 以外の状態で“パワー”スイッチを OFF にした	シフトレバーを P にする

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	—	電源をOFFして下さい （点滅）	シフトレバーが P 以外で“パワースイッチ”を OFF にしたあとシフトレバーを P に移動した	“パワー”スイッチを OFF にする

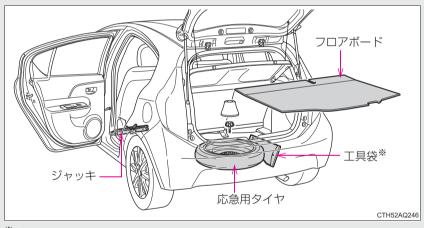
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

この車両には、応急用タイヤが搭載されています。パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。

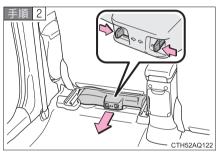
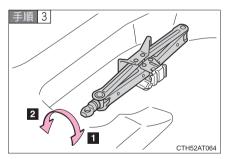
（タイヤについての詳しい説明はP. 290を参照ください）

■ ジャッキで車体を持ちあげる前に

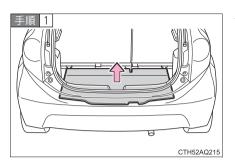
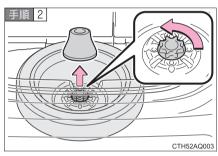
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPに入れる
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

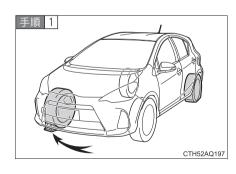
■ 工具とジャッキ位置

※ジャッキハンドル・ホイールナットレンチ・けん引フック

ジャッキの取り出し方

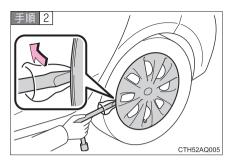
助手席シートをいちばん前に移動する

ツメを内側につまみ、手前に引いて、カバーを取りはずす

1 締まる

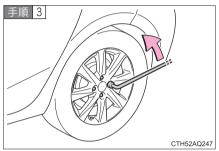
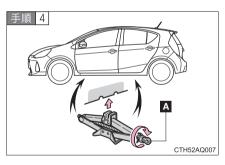
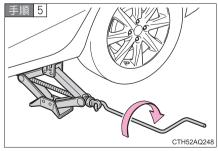
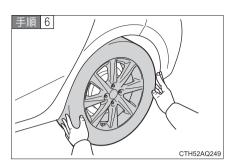
2 ゆるむ

応急用タイヤの取り出し方

フロアボードを取りはずす

クッションを取りはずし、留め具を取りはずす

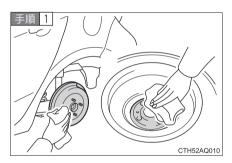
パンクしたタイヤの交換

輪止め※をする

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

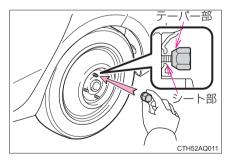
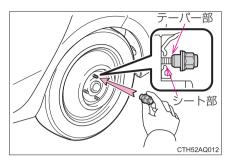
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

ホイールキャップをはずす（スチールホイールのみ）

傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。

ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

タイヤが地面から少し離れるまで、車体をあげる

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。

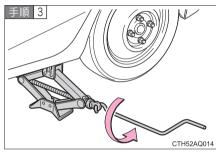
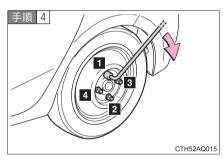
応急用タイヤの取り付け

ホイール接触面の汚れを拭き取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

スチールホイールから応急用タイヤにかえるときは、ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

アルミホイールから応急用タイヤにかえるときは、ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

手順 3

車体を下げる

手順 4

図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。(→P. 423)

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたときは

手順 1 後輪を応急用タイヤと交換する

手順 2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する

手順 3 タイヤチェーンを前輪に装着する

⚠ 警告

■応急用タイヤを使用するときは

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速・急ブレーキ・急減速・急旋回は避けてください。

■応急用タイヤを収納するときは

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

■応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ABS

●ブレーキアシスト

●VSC

●TRC

●EPS

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■**ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車両が落下して重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車両に使ったり他の車両のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車両の下に体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動させたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車両を持ちあげない
- 車両を持ちあげるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
- 車両を持ちあげるときは、タイヤ交換できる高さ以上にあげない
- 車両の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

⚠ 警告

■**タイヤ交換について**

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後は、すぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける。(→P. 293)

⚠ 注意

■**パンクしたままの走行について**

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■**応急用タイヤ装着中は段差に注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗りこえるときは注意してください。

■**応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着**

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

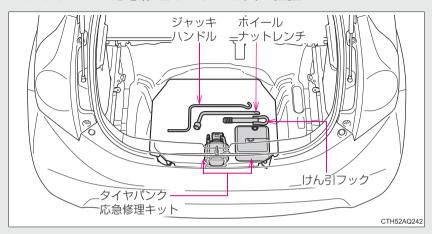
タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときにタイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やねじなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です。）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P.380）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。タイヤパンク応急修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

■ 応急修理する前に

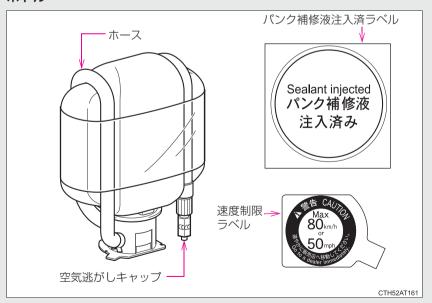
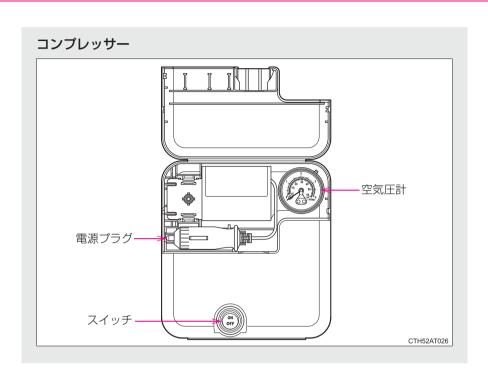
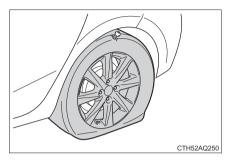
- ● 地面が固く平らな場所に移動する
- ● パーキングブレーキをしっかりかける
- ● シフトレバーを P に入れる
- ● ハイブリッドシステムを停止する
- ● 非常点滅灯を点滅させる

■ タイヤパンク応急修理キットと工具の位置

■ タイヤパンク応急修理キットの内容、各部名称

ボトル

コンプレッサー

応急修理する前に

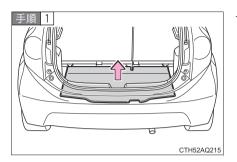
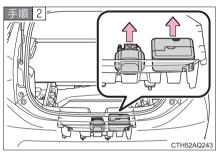
CTH52AQ250

応急修理をする前に、タイヤ損傷の程度を確認する

- ・タイヤに刺さっている釘やねじなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ応急修理が出来なくなることがあります。
- ・パンク補修液が漏れないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

知識

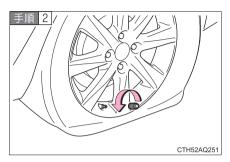
■次のときは、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

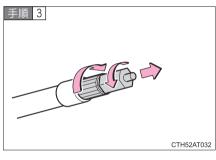
- ●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- ●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- ●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- ●タイヤに 4 mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ●ホイールが破損しているとき
- ●２本以上のタイヤがパンクしているとき
- ●１本のタイヤに２箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ●補修液の有効期限がきれているとき

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

フロアボードを取りはずす

タイヤパンク応急修理キットを取り出す

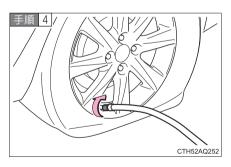
応急修理するときは

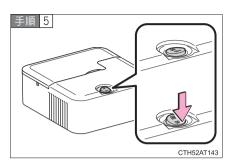
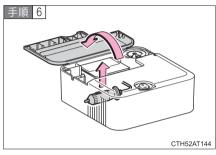
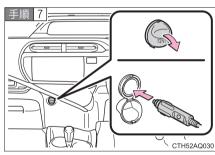
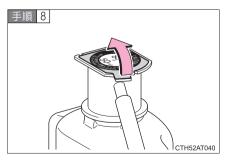
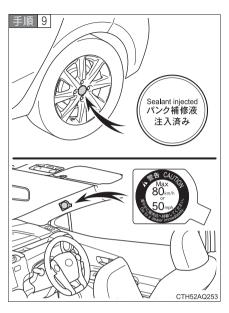
手順 1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

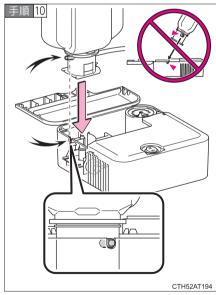
CTH52AQ251

パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす

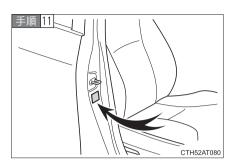
CTH52AT032

ボトルの保護フィルムをはがしホースをのばす
ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずす

ボトルに同封されているパンク補修液注入済ラベルは指定の位置へ貼り付けます。（手順 9へ）空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

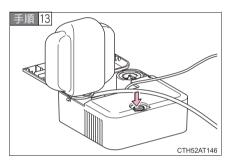
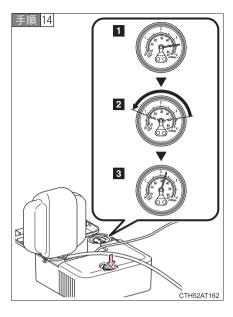
CTH52AQ252

ボトルのホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込む。

コンプレッサーのスイッチが“OFF”であることを確認する

フタを開けてコンプレッサーの電源プラグをはずす

コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む(→P. 272)

速度制限ラベルをはがす

付属のラベル2枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分に拭き取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済であることを必ずお伝えください。

ボトルをコンプレッサーに接続する

左の図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルの突起がケースの溝にしっかり合っているか確認してください。

タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P. 423)

手順 12 ハイブリッドシステムを始動する

コンプレッサーのスイッチを“ON”にし、パンク補修液と空気を充填する

空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

1 スイッチ“ON”直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇する

2 1分程度（低温の場合は5分程度）で実際の空気圧表示になる

3 指定空気圧になるまで充填する

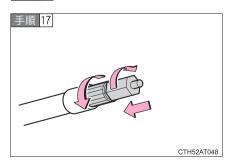
空気圧は、コンプレッサーのスイッチを“OFF”にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

35分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→P. 388，423）

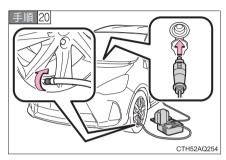
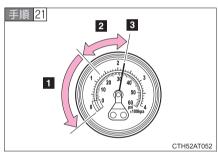
手順 15 コンプレッサーのスイッチが“OFF”であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜く
バルブからボトルのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液が漏れる可能性があります。

手順 16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。

手順 18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

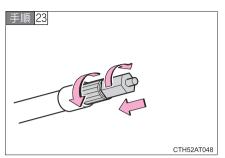
手順 19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5 km、安全に走行する（速度 80 km/h 以下）

走行後、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する

コンプレッサーのスイッチを約 5 秒間“ON”にし、“OFF”にしてから空気圧を確認する

1 空気圧が 130 kpa (1.3 kg/cm²) 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

2 空気圧が 130 kpa (1.3 kg/cm²) 以上、指定空気圧未満の場合：手順 22へ

3 空気圧が指定空気圧（→P.423）の場合：手順 23へ

手順 22 コンプレッサーのスイッチを“ON”にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5 km 走行後にあらためて手順 20から実施する

CTH52AT048

ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。

手順 24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納します

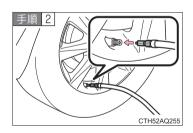
手順 25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80 km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行きます

タイヤの修理・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■空気を入れすぎてしまったときは

手順 1 タイヤからボトルのホースを取りはずす

CTH52AQ255

ボトルのホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く

手順 3 ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

手順 4 コンプレッサーのスイッチを数秒間“ON”にし、“OFF”にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。
有効期限がきれたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■応急修理キットについて

- ●応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。
- ●パンク補修液には有効期限があります。有効期限はボトルに表示されています。有効期限がきれる前に新しいボトルに交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- ●パンク補修液ボトル 1 本でタイヤ 1 本を 1 回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、繰り返し使用できます。
- ●外気温度が -30°C ～ 60°C のときに使用できます。
- ●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
- ●パンク補修液が衣服に付着するとシミになる場合があります。
- ●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などで速やかに拭き取ってください。
- ●応急修理キット作動中は大きな音がしますが故障ではありません。
- ●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

⚠ 警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■応急修理キットについて

- 応急修理キットはラゲージルームに収納してください。
  急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するときは

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
  走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとボトルのホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気が漏れたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

⚠警告

- パンク補修液注入中にボトルのホースが外れると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ボトルのホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
  手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを切り、修理を中止してください。
- 応急修理キットは長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分は特に熱くなるため、使用中または使用直後はふれないでください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。
  - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールから外れている可能性があります。
  - ・再度空気圧を測ってください。130 kPa (1.3 kg/cm^2) 未満の場合はタイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

5

トラブルが起きたら

⚠ 注意

■応急修理をするときは

●タイヤに刺さった釘やねじを取り除かずに応急修理を行ってください。 取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。砂埃などを吸い込むと、故障の原因になります。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは DC12 V 専用です。他の電源での使用はできません。

●応急修理キットにガソリンがかかると劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。

●応急修理キットはラゲージルームに収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解、改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

■ 正しいハイブリッドシステムの始動方法（→P. 140, 144）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

● スマートエントリー&スタートシステム装着車：電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→P. 398）

● 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。（→P. 94）

● イモビライザーシステム装着車：イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P. 98）

● ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

● スマートエントリー&スタートシステム装着車：電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→P. 394）

■ 室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

● 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 401）

● 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ 室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

● 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

● 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 401）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 3 “パワー” スイッチをアクセサリーモードにする

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏んで “パワー” スイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし、一時的な処置（やむを得ず車を移動させる必要がある場合）として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

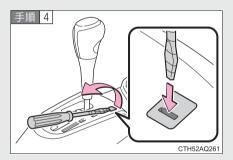
手順 2 **スマートエントリー＆スタートシステム非装着車**

エンジン スイッチを“ACC”にする

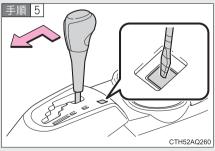
スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“パワー”スイッチをアクセサリーモードにする

手順 3 ブレーキペダルを踏む

手順 4

マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。

手順 5

シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。

警告

■**事故を防ぐために**

シフトロック解除ボタンを押す際は、ブレーキペダルを確実に踏んでください。

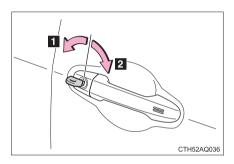
誤ってアクセルペダルを踏んでいるときに、シフトロック解除ボタンを押してシフト操作を行うと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 44)

電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

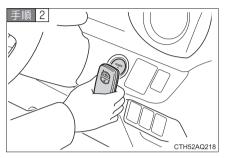
電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 53）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→P. 44）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）

1 全ドア解錠

2 全ドア施錠

ハイブリッドシステム始動の方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキをしっかり踏む

手順 2 電子キーのトヨタエンブレム面で、“パワー”スイッチにふれる

電子キーを検知するとブザーが鳴り、ON モードへ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムをキャンセルしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。

手順 3 **マルチインフォメーションディスプレイ非装着車**

ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が緑色に点灯していることを確認する

マルチインフォメーションディスプレイ装着車

ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する

手順 4 “パワー”スイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、シフトレバーをPにして“パワー”スイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 321)

■“パワー”スイッチのモードの切りかえ

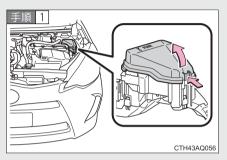
ハイブリッドシステム始動方法の 手順 3 で、ブレーキペダルから足を離して“パワー”スイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P. 147)

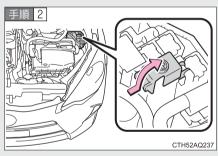
■スマートエントリー&スタートシステムにてドアの施錠・開錠ができないときは

メカニカルキーまたは、ワイヤレスリモコンでドアの施錠・開錠をしてください。

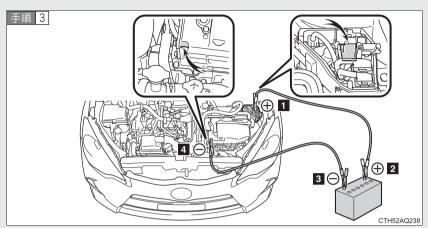
補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12 V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

ボンネットを開け、ヒューズボックスのカバーをはずす

ツメを押しながら、カバーを持ち上げてはずします。

ヒューズボックス内の救援用端子カバーを開ける

ツメを押しながら、カバーを開けます。

手順 3

ブースターケーブルを次の順につなぐ

1 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ

2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

手順 5 スマートエントリー＆スタートシステム装着車は、“パワー”スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

手順 6 **スマートエントリー＆スタートシステム非装着車**

救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジン スイッチをいったん“ON”にしてからハイブリッドシステムを始動する

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

救援車のエンジン回転を維持したまま、“パワー”スイッチをいったん ON モードにしてからハイブリッドシステムを始動する

手順 7 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

手順 8 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

手順 9 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ヒューズボックスのカバーは、奥にあるツメ（2箇所）を先に引っかけてから取り付けてください。

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがったときの留意事項（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリーがあがったあとの、最初のハイブリッドシステムは始動できないことがあります。2回目以降のハイブリッドシステムは正常に始動しますので、問題ではありません。

●車両は常に“パワー”スイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、補機バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、“パワー”スイッチを OFF にしてから行ってください。
補機バッテリーあがり前の“パワー”スイッチの状態がアクセサリーモードまたは ON モードのままであった場合、補機バッテリー接続時にオーディオやエアコンが作動することがあります。

■補機バッテリーについて

→P. 296

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

⚠ 警告

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない

●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない

●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない

●補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーあがりの処置をしたあとは

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■補機バッテリーの交換について

→P. 297

警告

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液 (酸) が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする

●必要以上に、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない

●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

●補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまを補機バッテリーに近付けない

■補機バッテリーの交換について

交換する場合はアクア専用品を使用してください。専用品以外を使用すると、ガス (水素) が室内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■**ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■**救援用端子について**

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。
この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のようなとき、オーバーヒートの可能性があります。

マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

- 高水温警告灯が点滅または点灯：エンジンがオーバーヒートしている可能性があります。
- ハイブリッドシステム過熱警告灯が点灯：パワーコントロールユニットが過熱している可能性があります。

マルチインフォメーションディスプレイ装着車

- （→P. 354）がマルチインフォメーションディスプレイに表示：エンジンがオーバーヒートしている可能性があります。
- ハイブリッドシステム過熱メッセージ（→P. 357）がマルチインフォメーションディスプレイに表示：パワーコントロールユニットが過熱している可能性があります。

手順に従ってご対処ください。

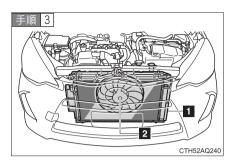
対処方法

■ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき、または がマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

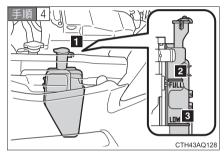
手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：
ハイブリッドシステムを停止する。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、ハイブリッドシステムを再始動する

蒸気が出ていない場合：
READY インジケーターが点灯した状態のまま、注意してボンネットを開ける

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

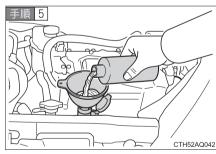
1 ラジエーター

2 ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

1 リザーバータンク

2 “FULL”（上限）

3 “LOW”（下限）

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

手順 6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

手順 7 ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

■ ハイブリッドシステム過熱警告灯が点灯したとき、またはハイブリッドシステム過熱メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

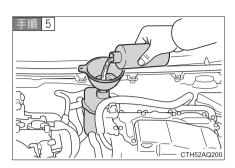
手順 2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

1 ラジエーター
2 ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

1 リザーバータンク
2 “FULL”（上限）
3 “LOW”（下限）

手順 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

手順 6 ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：

ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

表示が消えている場合：

最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●マルチインフォメーションディスプレイ非装着車：
ハイブリッドシステムの停止後は、スマートエントリー&スタートシステム表示灯と READY インジケーターが消灯していることを確認してください。

マルチインフォメーションディスプレイ装着車：
ハイブリッドシステムの停止後は、マルチインフォメーションディスプレイの 電源ON と READY インジケーターが消灯していることを確認してください。

ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ハイブリッドシステムおよびラジエーター･補助タンクが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■冷却水を入れるときの注意

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

手順 1 シフトレバーを P にし、パーキングブレーキをかけてハイブリッドシステムを停止する

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 ハイブリッドシステムを再始動する

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

警告

■脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる

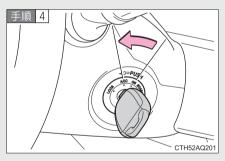
シフトレバーが N に入った場合

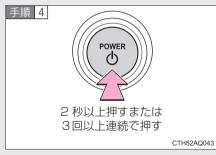
手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

手順 4 ハイブリッドシステムを停止する

シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

手順 4

スマートエントリー&スタートシステム非装着車：エンジン スイッチを“ACC”にして、ハイブリッドシステムを停止する

手順 4

スマートエントリー&スタートシステム装着車：“パワー”スイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する

手順 5 車を安全な道路脇に停める

警告

■**走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するときは**

- ●ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- ●スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

車両仕様 6

メンテナンスデータ（指定燃料、オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	36

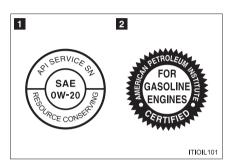
エンジンオイル

指定銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値※1）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタキャッスルモーターオイル 0W-16※2 —SAE 0W-16 トヨタキャッスルモーターオイル SN 0W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタキャッスルモーターオイル SN 5W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20 トヨタキャッスルモーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30 トヨタキャッスルモーターオイル SN 10W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30	1NZ-FXE	3.4	3.7

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

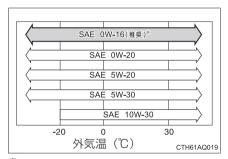
※2 0W-16 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

トヨタキヤッスルモーターオイル 0W-16 または、API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATIONマーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-16 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

- 0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。
  粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
	ガソリンエンジン	インバーター
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　-12 ℃ 濃度 50%　-35 ℃	寒冷地仕様車 5.3	1.6
	寒冷地仕様車を除く 4.5	

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] （参考値※）
トヨタ純正オートフルード　WS	3.3

※　交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ブレーキ

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※1	70

※1 ハイブリッドシステムが作動している状態で、294 N (30 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
引きしろ 操作力 200 N (20 kgf) のときのノッチ※2 数	8 ～ 11

※2 ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）	
リヤワイパー非装着車	1.8
リヤワイパー装着車（G's を除く）	4.8
リヤワイパー装着車（G's）	2.3

タイヤ・ホイール

標準タイヤ

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)	
		前輪	後輪
165/70R14 81S	14 × 5J	250 (2.5)	240 (2.4)
175/65R15 84H	15 × 5 1/2J	230 (2.3)	230 (2.3)
195/50R16 84V	16 × 6J	220 (2.2)	200 (2.0)
195/45R17 81W	17 × 6 1/2J	230 (2.3)	230 (2.3)

スペアタイヤ

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)
T125/70D15 95M	15 × 4T	420 (4.2)
T125/70D16 96M	16 × 4T	

電球（バルブ）

	電球	W（ワット）数
車外	ヘッドランプ ハイビーム（バルブタイプ：ＨＢ3） **ハロゲンヘッドランプ装着車★** ロービーム（バルブタイプ：Ｈ11） **LED ヘッドランプ装着車★** ロービーム	 60 55 LED ※ 1
	車幅灯	5
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	フロントフォグランプ★（バルブタイプ：H16）	19
	尾灯	5
	制動灯	LED ※ 1
	番号灯	5
	後退灯	16
	ハイマウントストップランプ	LED ※ 1
	サイド方向指示灯／非常点滅灯※ 2	5
	LED イルミネーションビーム★	LED ※ 1
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
車内	インテリアランプ／パーソナルランプ	5
	ラゲージルームランプ★	5

※ 1 LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

※ 2 電球のみの交換はできないため、トヨタ販売店にご連絡ください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

車両仕様

型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
NHP10	1NZ-FXE （1.5L ガソリン）	1LM	FF（前輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備が付いています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
車両通報接近装置（→P. 26）	音量調整	レベル 1	レベル 2
			レベル 3
スマートエントリー&スタートシステム★、ワイヤレスドアロック（→P. 47, 58）	作動の合図（ブザー）※3	あり	なし
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	作動の合図（ブザー音量調整）※1, 3	レベル 7	レベル 0 ～ 7
	作動の合図（ブザー音量調整）※2, 3	レベル 5	レベル 0 ～ 7
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
			120 秒
	半ドア警告ブザー※3	あり	なし
スマートエントリー&スタートシステム★（→P. 47）	スマートエントリー&スタートシステムの作動	あり	なし
	連続してできる施錠操作の回数	2 回	無制限

※1 LED ヘッドランプ非装着車

※2 LED ヘッドランプ装着車

※3 スマートエントリー & スタートシステム装着車

★ : 仕様により異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ワイヤレスドアロック (→P. 58)	ワイヤレス機能	あり	なし
ランプ自動点灯・消灯システム★ (→P. 193)	ライトセンサーの感度調整	レベル3	レベル1～5
	暗さを検知してからランプを点灯するまでの時間	標準	長め
ドアミラー (→P. 88)	オート電動作動	あり	なし
イルミネーテッドエントリーシステム (→P. 258)	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
			30 秒
	解錠時の作動	あり	なし
	エンジン スイッチ“LOCK”後の作動※1	あり	なし
	“パワー”スイッチ OFF 後の作動※2	あり	なし
	検知エリア接近時の作動※2	あり	なし
エアコン (→P. 220)	エコドライブモード時のエアコン制御	する	しない

※1 スマートエントリー&スタートシステム非装着車

※2 スマートエントリー&スタートシステム装着車

★：仕様により異なる装備やオプション装備

さくいん

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
EV	エレクトリックビークル
INT	インターミッテント
LED	ライトエミッティングダイオード
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VSC	ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

え

き

く

け

せ

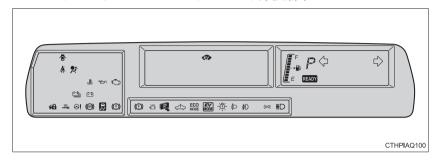
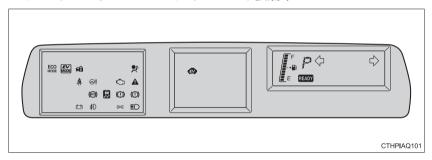
そ

ひ

ふ

症状別さくいん

警告灯が点灯、点滅した → P. 344 警告灯がついたときは

マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

マルチインフォメーションディスプレイ装着車

■警告灯一覧

警告ブザーが鳴った

■警告灯の点灯、点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージを確認ください。

- 警告灯が点灯、点滅している（→P. 344）
- 警告メッセージが表示されている（→P. 354）

■警告灯の点灯、点滅や、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、次のことを確認ください。

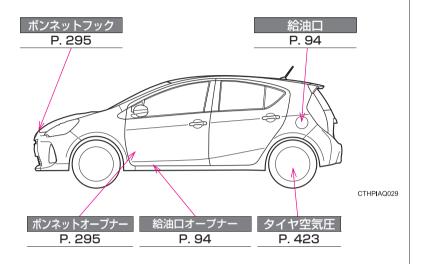
お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 51 P. 142 P. 196
	車外に出たとき	P. 51
	スマートエントリー&スタートシステムでロックセンサー部にふれたとき	P. 51
	ワイヤレス機能でロックスイッチを押したとき	P. 58
	“パワー” スイッチを押したとき	P. 51
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 161
	ブレーキペダルを踏んだとき	P. 134

ハイブリッドさくいん

ハイブリッド特有の説明がある項目

★：仕様により異なる装備やオプション装備

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

燃料の容量 (参考値)	36 L
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン　P. 418
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 423
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 3.4 L オイルとフィルター交換時 3.7 L
エンジンオイルの種類	トヨタキャッスルモーターオイル ・ 0W-16 (SAE 0W-16) ・ SN 0W-20 (API SN/RC、ILSAC GF-5、SAE 0W-20) ・ SN 5W-20 (API SN/RC、ILSAC GF-5、SAE 5W-20) ・ SN 5W-30 (API SN/RC、ILSAC GF-5、SAE 5W-30) ・ SN 10W-30 (API SN/RC、ILSAC GF-5、SAE 10W-30)

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール **0800-700-7700**

オープン時間　365日　9：00～18：00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

ニ-86

M　52C35
01999ー52C35
CC-2014年４月28日
2014年５月６日　初版
アクア